

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 a	田中 敦
前期・2単位	<登録条件>教科内容からも通年履修が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ギリシアに於ける哲学の成立をきちんと理解した上で、それがその後の哲学の展開、変遷を通じてどのように継承されてきたかについて基礎的な理解を得る。その際、近代以降の哲学との大きな違いに注目したい。西洋哲学の根本性格を理解する上でキリスト教信仰や神学との緊張と密接な関連を歴史に即して理解することを目標にしたい。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>西洋哲学はプラトン哲学に付けられた一連の脚注であると言われることがあるが、その意味ではプラトン哲学と、その弟子でプラトンと対決したアリストテレス哲学の理解が第一の山となる。西洋の哲学はその後、西洋世界の歴史そのものと同じくキリスト教との関わり、相互影響の中で発展していくが、そのために重要な意味を持つアウグスティヌスとトマス・アクィナスに於ける哲学的探求の理解が第二の山となる。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特にありません。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 哲学とはどういうものか。哲学の始まりについて。 2, ソクラテス以前の哲学者 (1) イオニアの自然哲学からピュタゴラス派まで。 3, ソクラテス以前の哲学者 (2) 二人の巨人、パルメニデスとヘラクレイトス。 4, アテナイに於ける哲学の成立。ソフィストの活躍とソクラテスの批判。 5, 小ソクラテス学派 (キュニコス派、キュレネ派、メガラ派) について。 6, プラトンにおける哲学の確立。ソクラテスとプラトンによるその継承の問題。 7, プラトン哲学の全体的構造と後世への影響。 8, アリストテレスによるプラトン哲学との対決、論理学の位置。 9, アリストテレス哲学の特色、理論と実践の厳格な区別とその意味。 10, ヘレニズム時代の哲学：ストア主義、エピクロス主義、懐疑主義。 11, ピュロンの哲学と新プラトン学派、特にプロティノスの哲学。 12, 教父の哲学、アウグスティヌス。 13, スコラ哲学の成立、キリスト教と哲学の継承。 14, トマス・アクィナスの哲学思想。 15, 普遍論争とウィリアム・オッカムの哲学。 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>授業で用いる資料を予め配布するので、それを授業に先立って読んでおくことが授業内容の理解を助ける。少なくともその資料に目を通して、どのような問題が取り上げられるか、また理解の難しい点、疑問点などをチェックしてから出席して欲しい。</p>	
<p><テキスト></p> <p>事前に資料を配布し、その内容の理解を中心として講義を進めます。</p>	
<p><参考書></p> <p>原佑、井上忠、杖下隆英、坂部恵『西洋哲学史 {第三版}』東京大学出版会、1988 年 岡崎文明、日下部吉信他著『西洋哲学史』昭和堂、1994 年 波多野精一著、牧野紀之再話『西洋哲学史要』未知谷、2001 年</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) ></p> <p>レポートの評価を基にして、授業への積極的な参加態度と発言の評価を加える。 出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 b	田中 敦
後期・2単位	<登録条件>教科内容からも通年履修が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>様々な哲学の主題と考え方を学ぶことを通じてそれらに共通する哲学一般の基礎的な理解を目指す。その際、現代という時代また現代思想の基盤として西洋近世哲学の基本的全体的な特徴と課題の理解をも目指す。特に神学、キリスト教思想との関連において哲学の歴史とその理解のもつ意味を考えることを目標にしたい。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>近世以後の西欧の哲学の諸学説について、特に経験論と合理論の基本的な違い、それぞれの正当な根拠、両者を統合したカント哲学の理解を得た上で、カント以後の哲学の主要な哲学者の考えも辿る。それと共に、哲学の基本的な概念、例えば実体、属性、観念、分析、総合などの意味の正確な理解を期す。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特にありません。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学とはどういうものか。それは信仰、神学の理解にとってどのような意味を持ち得るか。近世ヨーロッパの哲学の概観とその特徴、現代の哲学の状況。 2. 過渡期の哲学としてのルネサンス哲学（プラトン主義の復興、アリストテレス哲学の復興、人文主義）。 3. 17世紀の哲学の二大潮流（英国経験論と大陸合理論）。フランシス・ベーコン。学問の革新と新しい認識の方法（イドラ批判と帰納法）。 4. デカルト1.（生涯、方法の探究と懐疑、実体の意味）、普遍的な方法的懐疑と合理的体系。 5. デカルト2.（精神と物体の二元論、心身合一の難問、情念と道徳）。 6. パスカル（理性と心情、三つの秩序）と機会原因論（心身の関係について）。 7. スピノザ（感情の奴隷から自由な存在へ、認識の三段階、神即自然の一元論）。 8. ライブニッツ（実体の多元論、モノドと予定調和説、二つの原理と二種類の真理）。 9. イギリス経験論の流れとロック（心は白紙、実体の複雑観念、抽象一般観念）。 10. バークレー（抽象一般観念の否定、物体の存在は知覚されること）、ヒューム（因果関係の客観性の否定、二種類の関係と観念連合、知覚の束）。 11. カントの批判哲学（アプリアリナ総合的判断、コペルニクス的転回、現象と物自体、二律背反、実践理性の優位、定言命法）。 12. ドイツ観念論の哲学、フィヒテ（知識学、事行）、シェリング（同一哲学、人間の自由）。 13. ヘーゲル（弁証法、精神現象学、理性の狡知、歴史哲学）。 14. ヘーゲル以後の哲学の展開、キェルケゴール（実存の三段階）とニーチェ（超人と永劫回帰、ニヒリズム）。 15. ニーチェ以後と現代の哲学の展開。特に現象学の有する意味を中心に（新カント派、実証主義、プラグマティズム、分析哲学、現象学）。 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>授業で用いる資料を予め配布するので、それを授業に先立って読んでおくことが授業内容の理解を助ける。少なくともその資料に目を通して、どのような問題が取り上げられるか、また理解の難しい点、疑問点などをチェックしてから出席して欲しい。</p>	
<p><テキスト></p> <p>事前に資料を配布し、その内容の理解を中心として講義を進めます。</p>	
<p><参考書></p> <p>原佑、井上忠、杖下隆英、坂部恵『西洋哲学史 {第三版}』東京大学出版会、1988年 岡崎文明、日下部吉信他著『西洋哲学史』昭和堂、1994年 波多野精一著、牧野紀之再話『西洋哲学史要』未知谷、2001年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポートの評価を基にして、授業への積極的な参加態度と発言の評価を加える。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史 a	小宮 正安
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「ヴンダーカンマー」(珍品収集室／驚異の部屋)を切り口に、ルネッサンスからバロックにかけてのヨーロッパの諸相を学ぶことによって、キリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を学ぶことができます。</p>	
<p><授業の概要> ルネッサンスからバロックにかけてヨーロッパを席卷した「ヴンダーカンマー」(珍品収集室／驚異の部屋)の変遷を辿りながら、当時の宗教観や宇宙観について芸術史、科学史、社会史等を織り交ぜることで、近世ヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館とコレクションの歴史について 概論 2. ルネッサンスの再検証とヴンダーカンマーの誕生 3. ルネッサンスの宇宙観とヴンダーカンマーの世界観 4. メディチ家に見るコレクション保護政策 5. マニエリスムの誕生とヴンダーカンマーの変容 6. 皇帝ルドルフの魔術的世界観とヴンダーカンマー 7. アルチンボルドとヴンダーカンマー的コレクション 8. キルヒャーと「キルヒャー博物館」 9. 「自然科学」の萌芽に見る「近代的博物館」の予兆 10. バロックにおけるヴンダーカンマーの瀟洒化 11. 近代の訪れとヴンダーカンマーの解体 12. ヴンダーカンマーと博物館の差異 13. シュールレアリストたちによるヴンダーカンマー再発見 14. ヴンダーカンマーと博物館 各価値観の止揚 15. 総論・まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<p><テキスト> 愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎 (小宮正安著 集英社新書)</p>	
<参考書>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度、試験を総合的に見て評価します。</p>	

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目	
キリスト教と芸術 2 音楽史 a	渡辺 善忠
前期・2単位	<登録条件>条件ではありませんが、通年の履修をお勧め致します。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神の救いの御業が、旧新約聖書（ユダヤ教～教会）の御言葉に基づく音楽によって伝えられてきた歴史を辿りつつ、日本の教会における音楽の役割について考察することを目標とします。</p>	
<p><授業の概要> 「音楽史 a（前期）」では、ユダヤ教の音楽から宗教改革時代前後までの音楽について、時代背景と聖書解釈の両面から論じつつ作品に親しみます。</p>	
<p><履修条件> 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学と音楽の関わり等）</p> <p>第2回 旧約聖書時代の音楽①～ユダヤ教の音楽～</p> <p>第3回 旧約聖書時代の音楽②～ユダヤ教から初代教会にかけての音楽～</p> <p>第4回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会①～グレゴリオ聖歌の成立～</p> <p>第5回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会②～グレゴリオ聖歌の発展～</p> <p>第6回 ミサ曲の成立と発展～音楽史的側面～①</p> <p>第7回 ミサ曲の成立と発展～礼拝様式との関わりについて～②</p> <p>第8回 オラトリオの成立と発展～音楽史的側面～①</p> <p>第9回 オラトリオの成立と発展～聖書朗読から音楽へ～②</p> <p>第10回 レクイエムの成立と発展</p> <p>第11回 宗教改革直前の教会音楽</p> <p>第12回 宗教改革時代の教会音楽</p> <p>第13回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌①～聖書と讃美歌の関わり～</p> <p>第14回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌②～現代の教会における讃美歌～</p> <p>第15回 旧約聖書の時代から宗教改革時代までの教会音楽の発展と評価</p>	
<p><準備学習等の指示> 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べや、講義内容の進度を調整致します。</p>	
<p><テキスト> 「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著） 第1回の講義で配布する予定です。</p>	
<p><参考書> 図書館のカウンター横の棚に参考図書のコナーを設けて頂きましたのでご参照下さい。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況と平常点を考慮に入れながら、試験かレポートで評価致します。</p>	

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目	
キリスト教と芸術 2 音楽史 b	渡辺 善忠
後期・2 単位	<登録条件>条件ではありませんが、通年の履修をお勧め致します。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神の救いの御業が、旧新約聖書（ユダヤ教～教会）の御言葉に基づく音楽によって伝えられてきた歴史を辿りつつ、日本の教会における音楽の役割について考察することを目標とします。</p>	
<p><授業の概要> 「音楽史 b（後期）」では、宗教改革時代から現代までの音楽について、時代背景と聖書解釈の両面から論じつつ作品に親しみます。なお、後期のしめくりには、讃美歌の選曲方法について具体的に学ぶ予定です。</p>	
<p><履修条件> 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回 キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学との関わり等）</p> <p>第 2 回 J. S. バッハ</p> <p>第 3 回 G. F. ヘンデル</p> <p>第 4 回 F. J. ハイドンと M. ハイドン</p> <p>第 5 回 A. モーツァルト</p> <p>第 6 回 L. V. ベートーヴェン</p> <p>第 7 回 F. シューベルト</p> <p>第 8 回 F. メンデルスゾーン</p> <p>第 9 回 J. ブラームス</p> <p>第 10 回 F. シュミット</p> <p>第 11 回 J. ラター</p> <p>第 12 回 現代のキリスト教音楽と将来の課題</p> <p>第 13 回 讃美歌の選曲方法①～礼拝における讃美歌の役割～</p> <p>第 14 回 讃美歌の選曲方法②～讃美歌選曲の実践～</p> <p>第 15 回 旧約聖書の時代から宗教改革時代までのキリスト教音楽の発展と評価</p>	
<p><準備学習等の指示> 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べや、講義内容の進度を調整致します。</p>	
<p><テキスト> 「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著） 第 1 回の講義で配布する予定です。</p>	
<p><参考書> 図書館のカウンター横の棚に参考図書のコナーを設けて頂きましたのでご参照下さい。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況と平常点を考慮に入れながら、試験かレポートで評価致します。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
社会史 a	早川 朝子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 一般の人々の生きた社会を中心にヨーロッパ中世の歴史を学びます。</p>	
<p><授業の概要> ヨーロッパ中世は、政治制度や行政組織だけでなく、芸術や学問、さらには人々の日常生活にまでキリスト教の影響が及びました。この授業では、キリスト教が浸透し定着していったヨーロッパ中世の歴史を概観したうえで、教会建築、聖人崇拝・巡礼など、人々の日常に関わる具体的な事柄を取り上げます。それぞれにみられるキリスト教の影響や、中世の人々の考え方を考察します。なお、取り上げる事柄は状況により変更する場合があります。</p>	
<p><履修条件> 特にありません。</p>	
<p><授業計画> 第1回：「ヨーロッパ」、「中世」について 第2回：中世初期のヨーロッパ社会とキリスト教 第3回：中世盛期～後期のヨーロッパ社会とキリスト教 第4回：教会建築 第5回：聖人崇拝・巡礼 第6回：農村の生活 第7回：都市の生活 第8回：結婚・家族 第9回：教会暦と時間 第10回：死生観 第11回：ユダヤ人 第12回：貧民・周縁を生きる人々 第13回：救貧制度 第14回：病気と医療 第15回：まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 配付したプリントに目を通すなど、授業の復習をしてください。</p>	
<p><テキスト> 指定しません。プリントを配付します。</p>	
<p><参考書> 授業時に紹介します。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験、出席状況、授業への取り組みを総合的に評価します。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
社会史 b	早川 朝子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> ルネサンスと宗教改革を経験した、近世ヨーロッパの社会について学びます。</p>	
<p><授業の概要> ルネサンスと宗教改革を経て「近代」の幕が開いたと言われてきました。このような捉え方は相対化されつつありますが、プロテスタントを誕生させた宗教改革が、ヨーロッパやキリスト教会の歴史において重要な出来事であることには変わりはありません。そこでこの授業では、まずはルネサンス・宗教改革の時代を迎える前の中世末期の社会を、教会改革を求める様々な動きを中心に概観します。次いで宗教改革のはじまりと経過について概観し、宗教改革が都市や農村の社会に及ぼした影響や、識字率の低かった時代に、宗教改革思想の伝達に重要な役割を果たした木版画などについて、具体的な事例をもとに検討します。さらには、宗教改革の経過の中で登場した再洗礼派に焦点を当て、終末論と結びついた彼らの過激な言動や、信仰を守りぬくうえでの苦難について考察します。最後に解剖学、占星術・錬金術、魔女狩りを通して、近世期における科学の進歩や、依然として残る非科学的な側面についてみていきます。なお、授業の各回で扱う内容は状況により変更する場合があります。</p>	
<p><履修条件> 特にありません。</p>	
<p><授業計画> 第1回：「ルネサンス」と「宗教改革」について 第2回：中世末期のヨーロッパ社会 第3回：教会改革運動と異端 第4回：宗教改革のはじまりと経過 第5回：都市の宗教改革 第6回：農村の宗教改革 第7回：宗教改革思想の伝達：木版画 第8回：「宗派化」された社会 第9回：再洗礼派の誕生と広まり 第10回：終末論と再洗礼派 第11回：迫害と殉教 第12回：解剖学の発展 第13回：占星術・錬金術 第14回：魔女狩り 第15回：まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 配付したプリントに目を通すなど、授業の復習をしてください。</p>	
<p><テキスト> 指定しません。プリントを配付します。</p>	
<p><参考書> 授業時に紹介します。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験、出席状況、授業への取り組みを総合的に評価します。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権 1 法学概論	佐々木 高雄
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ>法律や『六法全書』への嫌悪感を緩和し、「まずは、自分で考えてみよう」との意欲を懐き、論理的な思考に馴染めることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要>「人が定めた規則に、なぜ従わなければならないのか」との問題を考えたいうえで、市民生活に必要な法律上の知識を——ほんの一部にとどまるが——修得しながら、その背後に潜む理念を探りたい。</p>	
<p><履修条件>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法と法律の違い／正義の女神が持つ「秤と剣」の意味／ノートを取り方 2. 法律解釈の方法／「可能な解釈」と「採るべき解釈」／本の読み方 3. 出生にかかわる法律（権利能力／自然人と法人）／レポートの書き方 4. 基礎的事項（一般法と特別法／年齢の教え方と期間計算法／条件と期限） 5. 未成年者に対する保護法制（行為能力① 未成年者でも出来ること） 6. 老人に対する保護法制（行為能力② 成年後見制度） 7. 婚姻にかかわる法律 8. 離婚にかかわる法律 9. 遺産相続にかかわる法律 10. 物権にかかわる法律①（物権と債権の違い／物権にかかわる原則） 11. 物権にかかわる法律②（所有権の特質／相隣関係） 12. 物権にかかわる法律③（所有権の取得） 13. 債権にかかわる法律①（身分から契約へ／契約にかかわる原則） 14. 債権にかかわる法律②（債権の保全と担保） 15. 犯罪と刑罰について／まとめ 	
<p><準備学習等の指示>授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するならば、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。</p>	
<p><テキスト>特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。</p>	
<p><参考書>一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が1／3を超える者は、評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権2 日本国憲法	佐々木 高雄
後期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ>各自が「大きな声」に左右されることなく、憲法問題の本質を、実証的な知識に基づいて、自分の頭で考え得るようにすることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要>制憲史的手法を活用し、できるかぎり客観的な事実を確認しながら、憲法という規範の解釈に努め、人権問題を中心に、「憲法に盛り込まれた理念」と「現実の姿」とを、対比して検討する。</p>	
<p><履修条件>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か？ 2. 明治憲法の制定／明治憲法の特徴 3. 日本国憲法の制定①（ポツダム宣言からマッカーサー・ノートまで＝新憲法の基盤・背景） 4. 日本国憲法の制定②（マッカーサー草案＝民主化のための諸項目） 5. 日本国憲法の制定③（日本側の作業＝旧い価値観／議会における審議手続／改正か、制定か） 6. 制定された憲法の特徴／国民主権（象徴天皇制との関わりのもとに） 7. 平和主義①（「第九条」の解釈／前文・第2段） 8. 平和主義②（「第九条」をめぐる裁判例／平和的生存権） 9. 人権尊重主義／人権に関わる一般原則 10. 平等権（信条による差別＝憲法の私人間効力／性差別／尊属殺重罰規定／議員定数不均衡問題） 11. 宗教の自由（信教の自由／政教分離原則） 12. 表現の自由（知らせる自由／知る自由／知られたくない自由） 13. 経済的自由権 14. 身体的自由権（法定手続の保障／令状主義）／他の人権（社会権など） 15. 統治機構／まとめ 	
<p><準備学習等の指示>授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するならば、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。</p>	
<p><テキスト>特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。</p>	
<p><参考書>一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が1／3を超える者は、評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
現代の自然観 a	松原 郁哉
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 天体の運動を地上の物体の運動と同様に説明した古典物理学によって、人類の世界観がどのように変わったか、さらにそこに宗教がどう関わったかを理解する。</p>	
<p><授業の概要> 科学的なものの見方を理解するために、ニュートンの力学と熱学の基礎を学ぶ。 科学者と宗教の関わりを学ぶ。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 力と運動(1)：速度と加速度 2. 力と運動(2)：慣性の法則 3. 力と運動(3)：運動の法則 4. ガリレオの科学と宗教 5. 力と運動(4)：落下運動と放物運動 6. 力と運動(5)：運動量と力積 7. 力と運動(6)：円運動と単振動 8. 力と運動(9)：万有引力 9. ニュートンの科学と宗教 10. 熱とエネルギー(1)：温度と熱膨張 11. 熱とエネルギー(2)：比熱と熱容量 12. 熱とエネルギー(3)：仕事と熱 13. エントロピー(1)：可逆過程と不可逆過程 14. エントロピー(2)：エントロピー増大則 15. 力学と熱学のまとめ 	
<準備学習等の指示>	
<p><テキスト> プリントを担当者が準備する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
現代の自然観 b	松原 郁哉
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 相対論や量子力学などの現代物理学によって自然観がどのように変化したか、さらにそこに宗教がどう関わったかを理解する。</p>	
<p><授業の概要> 現代物理学が時間・空間および物質の存在形式をどのように捉えているかを知るために、電磁気、波動、相対論および量子論の基礎を学ぶ。 科学者と宗教の関わりを学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気と磁気(1)：静電気 2. 電気と磁気(2)：電流 3. 電気と磁気(3)：磁場 4. 電気と磁気(4)：電流と磁場 5. ファラデーの科学と宗教 6. 波動(1)：波の種類と特性 7. 波動(2)：ドップラー効果 8. 波動(3)：波の重ね合わせと干渉 9. 波動(4)：音と音波 10. 相対論(1)：ガリレオの相対性原理と光速度 11. 相対論(2)：アインシュタインの特殊相対性理論 12. アインシュタインの科学と宗教 13. 量子論(1)：光の粒子性と電子の波動性 14. 量子論(2)：シュレディンガー方程式 15. 電磁気、波動、相対論および量子論のまとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> プリントを担当者が準備する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・情報科学系	
情報基礎	石部 公男
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> パソコンと共にスマートフォンや携帯端末が多様化している社会にあつて、主にパソコンを中心にその仕組みの概略を理解させる。さらにそこで使用されているアプリケーションの内、主なものの使用法を身に着けることができるようにする。</p>	
<p><授業の概要> パソコンや通信についての基本的理解と共に、実習に重きを置きながら表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、について基本的な活用ができるようにする。さらにデータベースや簡単なプログラムについての知識についても理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 特に制限はない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータとインターネットの歴史 2. 基本ソフト（OS）とアプリケーション 3. パソコンの仕組み 1。2進数とアナログ 4. パソコンの仕組み 2。コードと拡張子 5. ワードの利用と表計算ソフト 6. エクセルの利用。オートフィルおよび行と列の取り扱い 7. 関数の利用 1 合計、四捨五入 8. 関数の利用 2 平均と最大最少および並べ替え 9. グラフの作成 10. グラフに表の値を表示し吹き出し等を付加する 11. パワーポイントの利用 12. スライドに表とイラストの挿入 13. アニメーションをつける 14. クラウドの仕組みと印刷 15. データベースとアプリの相互利用 	
<p><準備学習等の指示> できるだけタイピングの練習をしておくこと。</p>	
<p><テキスト> 石部公男他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房（2003）</p>	
<p><参考書> 授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 平常点 70%。提出物 30%で評価する。</p>	

神学基礎科目	
キリスト教通論 I	須田 拓
前期・2単位	<登録条件>学部1年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学のある教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。</p>	
<p><授業の概要> 教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとどのようなことであるかを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 「新しい伝道の時代へ」(はじめに) 第3回 「教会生活の鍵」 第4回 「伝道的教会と伝道的信仰」(前半) 第5回 「伝道的教会と伝道的信仰」(後半) 第6回 「洗礼」 第7回 「聖餐」(前半) 第8回 「聖餐」(後半) 第9回 「信仰告白と信仰生活」 第10回 「信仰告白と教会形成」 第11回 「祈りの意味」 第12回 「讃美歌の意味」(前半) 第13回 「讃美歌の意味」(後半) 第14回 「献金の意味」 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『教会生活の要点』(第二版、東神大パンフレット38、2010年) 学生各自で用意すること</p>	
<p><参考書> 特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業での発表、議論への参加状況によって評価する。</p>	

神学基礎科目	
キリスト教通論Ⅱ	須田 拓
後期・2単位	<登録条件>学部1年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。</p>	
<p><授業の概要> 使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。</p>	
<p><履修条件> 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション・啓示について 第2回 聖書について 第3回 創造について 第4回 人間について 第5回 キリストについて(1) 受肉 第6回 キリストについて(2) 十字架と救済 第7回 キリストについて(3) 復活 第8回 聖霊について 第9回 教会について 第10回 終末について 第11回 三位一体について 第12回 選びについて 第13回 義認と聖化について 第14回 聖礼典について 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加状況およびレポートによって評価する。</p>	

神学基礎科目	
聖書通論 1 旧約通論	田中 光
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>実際に旧約聖書を読んで、どこに何がどのように書いてあるかを学習し、旧約聖書に関する基本的な知識を身につける。また、旧約聖書が教会の歴史の中でどう読まれてきたのかということに関する初歩的な知識、そして聖書を聖書学の枠組みで読むための初歩的な知識をも身につける。最終的には、これらの知識を踏まえた上で、学生それぞれが、教会の中で聖書をどのように読むべきかを考えるきっかけとする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>旧約聖書 39 巻についての総論的説明をし、実際に聖書テキストのよく知られた箇所を読む。また、授業の中では、旧約聖書各巻にまつわる解釈の歴史に関する諸問題、また聖書学に関する諸問題についても最低限の説明をする。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&イントロダクション: 聖書とは何か?それはどう読まれてきたのか?私達はそれを今どう読むべきか? 2. カノン(正典)としての旧約聖書: キリスト教における旧約聖書の形(またユダヤ教における聖書の形)、更にはその成り立ちについて学び、その意味について考える。 3. モーセ五書① 創世記 4. モーセ五書② 出エジプト記 5. モーセ五書③ レビ記、民数記 6. モーセ五書④ 申命記、五書のまとめ 7. 申命記的歴史 8. 歴代誌的歴史 9. 諸文学① ヨブ記、箴言、コヘレト(伝道の書) 10. 諸文学② 雅歌、詩編 11. 預言書① イザヤ書 12. 預言書② エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書 13. 預言者③ ダニエル書 14. 預言書③ 十二小預言書 15. まとめと知識の再確認 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>授業ごとに、該当する旧約聖書の箇所を自分で読むこと。また、指定されている参考書の説明を事前に読んでくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>聖書(自分の教会で用いられているもの)</p>	
<p><参考書></p> <p>S. ヘルマン、W.クライバー著(泉治典、山本尚子訳)『聖書ガイドブック: 聖書全巻の成立と内容』、教文館、2000年(購入については授業の冒頭で指示する)。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。理由なく授業を三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は夏休み前に提示する。</p>	

神学基礎科目	
聖書通論 2 旧約時代史	田中 光
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約の基本的知識を歴史という軸において通観することによって、旧約を立体的に捉える。また、その際、旧約のカノンの（正典的）構造と、旧約の歴史批評的研究が提示する歴史との間の関係についても考える。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>カナン定着以前からローマ時代に至る旧約の歴史を辿る。毎回の授業ではテキストを用い、授業の前半では担当教員が概説的な説明をし、後半では、学生にテーマに沿った発表をしていただき、それをもとにディスカッションを行う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>学部1年次に履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 旧約の歴史を学ぶということ 3. カナン定着以前の時代 4. カナン定着 5. 統一王国時代の前半（サウルとダビデ） 6. 統一王国時代の後半（ソロモンと王国分裂） 7. 北王国の歴史（イエフ王朝まで） 8. 北王国の歴史（イエフ王朝以後） 9. 南王国の歴史（ヨシヤ王まで） 10. 南王国の歴史（ヨシヤ王以後） 11. バビロン捕囚時代 12. ペルシア時代 13. ヘレニズム時代 14. ローマ時代 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>授業と並行して自分で旧約聖書を全部通読すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』。日本基督教団出版局、1800円。各自用意すること。</p>	
<p><参考書></p> <p>山我哲雄『旧約時代史・旧約篇』（岩波現代文庫）をも併用する。そのほかは授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業の発表と筆記試験で評価するが、欠席が3分の1を超えた場合は試験を受けられない。</p>	

神学基礎科目	
聖書通論3 新約通論・歴史	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書 27 文書を概観する。</p>	
<p><授業の概要> 新約聖書 27 文書の背景、テーマ、研究史を概観し、新約聖書への理解を深める。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラス紹介、イエスの生涯 2. パウロの手紙総論、テサロニケの信徒への手紙一、二 3. コリントの信徒への手紙一 4. コリントの信徒への手紙二 5. ガラテヤの信徒への手紙 6. ローマの信徒への手紙 7. 同上 8. フィリピの信徒への手紙、フィレモンへの手紙 9. コロサイ、エフェソの信徒への手紙、ヘブライ人への手紙 10. マルコによる福音書 11. マタイによる福音書 12. ルカによる福音書、使徒言行録 13. ヨハネ福音書 14. ヨハネの黙示録 15. 期末試験 	
<p><準備学習等の指示> 各文書を事前に読んでくること。</p>	
<p><テキスト> 松永希久夫『歴史の中のイエス像』日本放送出版協会、1989年（中間ブックレポート）。</p>	
<p><参考書> 佐竹明『使徒パウロ』新版、新教出版社、2008年。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。</p>	

神学基礎科目	
神学通論	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>学部2年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学入門として、神学とはどのような学問であるか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 教会と信仰と神学の不可分性、教職を志す者として神学を学ぶこととその必要性について考える。</p>	
<p><履修条件> 学部2年生であること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 序——この授業の目的と課題 第1部 キリスト者と神学者 I. 霊的な務め・召命 2. II. 神学と教会奉仕の準備 III. 神学と信仰の従順 3. 第2部 キリスト教神学 I. 「神学」という言葉の意味 II. キリスト教神学の従来の意味 4. III. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化 5. IV. 近代神学（1）——シュライエルマッハーの神学の概要 6. IV. 近代神学（2）——シュライエルマッハーの神学への評価 7. V. 近代神学の歩み 8. VI. 新たな展開（1）——「近代神学」の「失敗」 9. VI. 新たな展開（2）——カール・バルトおよび「新しい神学」 10. VI. 新たな展開（3）——神の言葉の神学 11. VII. 神学と教会 12. VIII. 神学の「学問的」性格（1）——「学問的神学」とは 13. VIII. 神学の「学問的」性格（2）——神学と教会 14. IX. 神学諸科の分類 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> ノートをきちんととること。</p>	
<p><テキスト> 特になし。</p>	
<p><参考書> 神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』（キリスト新聞社、2009年）。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。</p>	

神学基礎科目	
神学通論 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 神学通論 b と通年で履修すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学入門として、神学とはどのような学問であるか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 教会と信仰と神学の不可分性、教職を志す者として神学を学ぶこととその必要性について考える。</p>	
<p><履修条件> 学部 3 年次編入生は必修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 序——この授業の目的と課題 第 1 部 キリスト者と神学者 I. 霊的な務め・召命 2. II. 神学と教会奉仕の準備 III. 神学と信仰の従順 3. 第 2 部 キリスト教神学 I. 「神学」という言葉の意味 II. キリスト教神学の従来の意味 4. III. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化 5. IV. 近代神学 (1) ——シュライエルマッハーの神学の概要 6. IV. 近代神学 (2) ——シュライエルマッハーの神学への評価 7. V. 近代神学の歩み 8. VI. 新たな展開 (1) ——「近代神学」の「失敗」 9. VI. 新たな展開 (2) ——カール・バルトおよび「新しい神学」 10. VI. 新たな展開 (3) ——神の言葉の神学 11. VII. 神学と教会 12. VIII. 神学の「学問的」性格 (1) ——「学問的神学」とは 13. VIII. 神学の「学問的」性格 (2) ——神学と教会 14. IX. 神学諸科の分類 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> ノートをきちんととること。</p>	
<p><テキスト> 特になし。</p>	
<p><参考書> 神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』（キリスト新聞社、2009 年）。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。</p>	

神学基礎科目	
神学通論 b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 神学通論 a と通年で履修すること
<授業の到達目標及びテーマ> 前期と同じ。	
<授業の概要> 神学入門のテキストを読みながら学ぶ。受講者には発表をして貰う。	
<履修条件> 学部3年次編入生は必修。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「第一講 説明」 3. 第一部 神学の場所 「第二講 言葉」 4. 「第三講 証人」 5. 「第四講 教会」 6. 「第五講 霊」 7. 第二部 神学的実存 「第六講 驚異」 8. 「第七講 捕捉」 9. 「第八講 義務」 10. 「第九講 信仰」 11. 第三部 神学の危険 「第十講 孤独」 12. 「第十一講 疑い」 13. 「第十二講 試練」・「第十三講 希望」 14. 第四部 神学作業 「第十四講 祈り」・「第十五講 研究」 15. 「第十六講 奉仕」・「第十七講 愛」 	
<準備学習等の指示> テキストを読み、質問・コメントなどを用意してくること。	
<テキスト> カール・バルト、『福音主義神学入門』、加藤常昭訳（新教出版社）。	
<参考書> 特になし。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表および授業への参加度による。	

外国語科目・必修	
英語 I A a	田中 光
前期・1単位	<登録条件>学部1年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎的英語力の向上。</p>	
<p><授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学び。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回 オリエンテーション、to不定詞 第2回 toなし不定詞 第3回 分詞 第4回 動名詞 第5回 動名詞と不定詞 第6回 時制 第7回 未来時の表現 第8回 進行形 第9回 完了形 第10回 態 第11回 仮定法（基礎） 第12回 仮定法（条件文その他） 第13回 比較 第14回 否定 第15回 名詞</p>	
<p><準備学習等の指示> 復習をしっかりとやること。</p>	
<p><テキスト> Toshinori Tomishige, <i>A Communicative Grammar of English</i> (Nan'un-do). (担当者から購入できる。)</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度・貢献度による。</p>	

外国語科目・必修	
英語 I A b	田中 光
後期・1単位	<登録条件>学部1年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎的英語力の向上。</p>	
<p><授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学び。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回 代名詞（基礎） 第2回 代名詞（形式主語、慣用表現など） 第3回 形容詞 第4回 冠詞 第5回 数量詞 第6回 副詞 第7回 動詞 第8回 法助動詞（will, shall, would, should） 第9回 法助動詞（can, may, must その他） 第10回 場所の前置詞 第11回 時間の前置詞 第12回 その他の前置詞 第13回 接続詞 第14回 関係代名詞 第15回 関係副詞</p>	
<p><準備学習等の指示> （前期に同じ）</p>	
<p><テキスト> （前期に同じ）</p>	
<p><参考書> （前期に同じ）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> （前期に同じ）</p>	

外国語科目・必修	
英語 I B a	須田 拓
前期・1単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。</p>	
<p><授業の概要> 英語でなされた説教を読むことで、基本的な神学用語に慣れると共に、英語の読解力を養成する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 テキスト講読 Death and the Resurrection pp.101-102</p> <p>第3回 テキスト講読 Death and the Resurrection pp.103-104</p> <p>第4回 テキスト講読 Death and the Resurrection pp.104-105</p> <p>第5回 テキスト講読 Death and the Resurrection pp.106-107</p> <p>第6回 テキスト講読 Jesus, the Second Adam pp.87-88</p> <p>第7回 テキスト講読 Jesus, the Second Adam pp.89-90</p> <p>第8回 テキスト講読 Jesus, the Second Adam pp.91-93</p> <p>第9回 テキスト講読 Life and the Spirit pp.121-122</p> <p>第10回 テキスト講読 Life and the Spirit pp.123-124</p> <p>第11回 テキスト講読 Life and the Spirit pp.125-126</p> <p>第12回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.127-128</p> <p>第13回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.129-130</p> <p>第14回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.131-132</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> Colin E. Gunton, <i>The Theologian as Preacher</i>, London and New York: T&T Clark, 2007 テキストは担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。</p>	

外国語科目・必修	
英語 I B b	須田 拓
後期・1単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。</p>	
<p><授業の概要> 英語の神学的文章に触れることで、神学書を読むための英語読解力を養成する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.75-76 第3回 テキスト講読 pp.77-78 第4回 テキスト講読 pp.79-80 第5回 テキスト講読 pp.81-82 第6回 テキスト講読 pp.83-84 第7回 テキスト講読 pp.85-86 第8回 中間総括 第9回 テキスト講読 pp.87-88 第10回 テキスト講読 pp.89-90 第11回 テキスト講読 pp.91-92 第12回 テキスト講読 pp.93-94 第13回 テキスト講読 pp.95-96 第14回 テキスト講読 pp.97-98 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> Alistair McGrath, <i>Lord and Saviour: Jesus of Nazareth (Christian Belief for Everyone)</i>, London: SPCK, 2014 テキストは担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。</p>	

外国語科目・必修	
ドイツ語 I A a (1,2) (初級)	小友 絹代
前期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修。ドイツ語 I Ab と通年の登録が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語の初級文法を習得し、辞書や文法書を用いて、ドイツ語の文章を読めるようになる。	
<授業の概要> ドイツ語初級文法の解説と練習。ドイツ語テキストを読む。	
<履修条件> ドイツ語未習であることが望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、アルファベット、発音 2 動詞の現在人称変化と練習 3 動詞の人称変化の練習、ドイツ語テキストを読む。 4 名詞と冠詞の格変化と練習 5 名詞と冠詞の練習問題とドイツ語テキストを読む。 6 定冠詞類、不定冠詞類と練習 7 冠詞類の練習問題とドイツ語テキストを読む。 8 動詞の人称変化の補足・命令形と練習 9 動詞人称変化の練習問題とドイツ語テキストを読む。 10 人称代名詞・疑問代名詞と練習 11 人称・疑問代名詞の練習問題とドイツ語テキストを読む。 12 前置詞の格支配と練習問題及びテキストを読む。 13 形容詞と練習問題及びテキストを読む。 14 形容詞・副詞の比較と練習問題及びテキストを読む。 15 接続詞・分離動詞と練習 16 接続詞と分離動詞の練習問題及びテキストを読む。 17 動詞の3基本形・過去形と練習 18 過去形の練習問題とテキストを読む。 19 完了形と練習問題及びテキストを読む。 20 話法の助動詞・未来形と練習 21 助動詞・未来形の練習問題及びテキストを読む。 22 再帰代名詞・再帰動詞・非人称動詞と練習 23 再帰動詞の練習問題及びテキストを読む。 24 指示代名詞・関係代名詞・不定代名詞と練習 25 指示・関係・不定代名詞の練習問題及びテキストを読む。 26 Zu 不定詞・受動態・分詞の用法と練習 27 Zu 不定詞・受動態・分詞の練習問題及びテキストを読む。 28 接続法と練習 29 接続法の練習問題及びテキストを読む。 30 数詞とまとめ 	
<準備学習等の指示> 授業毎に出される課題の準備をすること。独和辞典の持参。	
<テキスト> Yoshihisa Matsumoto , Deutsche Grammatik für ernsthaftes Lernen , Asahi Verlag 2004 テキストは教師が用意する。	
<参考書> 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社、2014年。 『クラウン独和辞典第5版』三省堂、2014年	
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期末に筆記試験を行う。欠席が1/3以上の場合は筆記試験の受験を許可しない。	

外国語科目・必修	
ドイツ語 I A b (1, 2) (初級)	長山 道
後期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修。
<授業の到達目標及びテーマ> 平易なテキストを読み、初級文法を定着させる。	
<授業の概要> テキストの和訳。文法の復習、練習問題を適宜行う。	
<履修条件> 初級文法を一とおり終えていること。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1 Die Schöpfung 2 Der Mann aus Erde (S. 3-4) 3 Der Mann aus Erde (S. 4-5) 4 Die verbotene Frucht (S. 6-7) 5 Die verbotene Frucht (S. 7-8) 6 Die verbotene Frucht (S. 8-9) 7 Das Paradies geht verloren (S. 10-11) 8 Das Paradies geht verloren (S. 11-12) 9 Die Sintflut (S. 13) 10 Die Sintflut (S. 14) 11 Die Sintflut (S. 15) 12 Die Sintflut (S. 16) 13 Die Sintflut (S. 17) 14 Der Turmbau zu Babel 15 Der Herr spricht zu Abraham (S. 19-20) 16 Der Herr spricht zu Abraham (S. 21) 17 Jakob findet Rahel (S. 22-23) 18 Jakob findet Rahel (S. 24) 19 Jakob findet Rahel (S. 25) 20 Joseph und seine Brüder (S. 26) 21 Joseph und seine Brüder (S. 27) 22 Joseph und seine Brüder (S. 28) 23 Joseph und seine Brüder (S. 29) 24 Joseph und seine Brüder (S. 30) 25 Joseph wird verkauft (S. 31-32) 26 Joseph wird verkauft (S. 33-34) 27 Joseph wird verkauft (S. 34-35) 28 Joseph und Potiphar (S. 36-37) 29 Joseph und Potiphar (S. 37-38) 30 総括 	
<準備学習等の指示> 必ず予習してくること。独和辞典、単語カードを持参すること。	
<テキスト> Fussenegger, Gertrud 著、小塩 節編『ドイツ語版聖書物語 I -歴史の始まり-』、朝日出版社、 ⁷ 2003年。学生各自で入手すること。	
<参考書> 必要に応じて指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期末に筆記試験を課す。	

外国語科目・必修	
ドイツ語 I B a (コミュニケーション)	福嶋 揚
前期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学生にとって有意義な「ドイツ語コミュニケーション」とは、何よりもドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」であろう。プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学びたい。</p>	
<p><授業の概要> 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。</p>	
<p><履修条件> 学部2年に履修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条 2. 十戒その他の重要な戒め 3. 詩編に基づく祈り 4. 聖書に基づく賛美の祈り 5. 子供と共に祈る 6. 日常の中の祈り 7. 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 8. その他の様々な場面での祈り 9. ローズンゲン(日々の聖句集)の使い方 10. カテキズム(ルター小教理問答) 11. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部) 12. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半) 13. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半) 14. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半) 15. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半) 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローズンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。</p>	

外国語科目・必修	
ドイツ語 I B b (コミュニケーション)	福嶋 揚
後期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期に引き続いて、プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学びたい。</p>	
<p><授業の概要> 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。</p>	
<p><履修条件> 学部2年に履修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 礼拝の言葉 2. アンダハトの言葉(家庭で) 3. アンダハトの言葉(教会暦にあわせて) 4. 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント) 5. 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス) 6. 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節) 7. 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭) 8. 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭) 9. 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ) 10. 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ) 11. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から) 12. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から) 13. ラジオ講演を聞く(カール・バルト) 14. 礼拝説教を聞く(カール・バルト) 15. 礼拝説教を聞く(現代の説教例から) 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。</p>	

外国語科目・選択	
英語Ⅱ a	高砂 民宣
前期・1単位	<登録条件> 学期ごとの登録可
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英文の神学書に慣れ親しみ、読解能力を高めると共に、神学用語や慣用表現等も習得する。</p>	
<p><授業の概要> 英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。</p>	
<p><履修条件> おもに学部2年生が対象。</p>	
<p><授業計画> 第1回：Unit 1: John 1 Testimony Concerning the Word p. 7 第2回：The Prologue (1:1-18) pp.7-8 第3回：Structure of the Poem pp.8-12 第4回： " 第5回： " 第6回： " 第7回： " 第8回：The Background of John's Metaphor of "the Word" pp.13-15 第9回： " 第10回： " 第11回：Testimony of John the Baptist (1:19-34) pp.15-17 第12回： " 第13回：The First Disciples (1:35-51) p.17 第14回：The Titles of Jesus pp.17-18 第15回：Questions for Reflection p. 18</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。</p>	
<p><テキスト> Matson, Mark A., <u>John</u>, Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)>出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。</p>	

外国語科目・選択	
英語Ⅱb	神代 真砂実
後期・1単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 初級レベルの神学書を読み、英語力を養うと共に、神学的な語彙や表現を身に着ける。</p>	
<p><授業の概要> 宗教改革者ルターについての入門的なテキストを順に和訳して貰い、適宜、説明を加えていく。</p>	
<p><履修条件> 主に学部2年生を対象とする。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テキスト、p. 57 3. 同、pp. 57-58 4. 同、pp. 58-59 5. 同、p. 59 6. 同、pp. 59-60 7. 同、p. 60 8. 同、pp. 60-61 9. 同、p. 61 10. 同、pp. 61-62 11. 同、p. 62 12. 同、pp. 62-63 13. 同、pp. 63-64 14. 同、pp. 64-65 15. 同、pp. 65-66 	
<p><準備学習等の指示> 予習・復習をしっかりとやること。</p>	
<p><テキスト> Alister E. McGrath, <i>A Cloud of Witnesses</i> (Grand Rapids: Zondervan Publishing Company, 1990), pp. 57-66. (担当者がプリントを用意する。)</p>	
<p><参考書> 特になし。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業での和訳の出来によって評価する。</p>	

外国語科目・選択	
英語実践 I	W. ジャンセン
後期・1単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。</p> <p>第1回 About Myself 第2回 About Myself 第3回 About My Family 第4回 About My Family 第5回 About Time 第6回 About Time 第7回 About Transportation 第8回 About Transportation 第9回 About Meeting Others 第10回 About Meeting Others 第11回 About Drinks 第12回 About Drinks 第13回 About Snacks 第14回 About Snacks 第15回 Overall Review</p> <p>必要に応じて、英会話の力を養う。</p>	
<p><準備学習等の指示> 休まないこと。会話に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室で配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

外国語科目・選択	
英語実践Ⅱ	W. ジャンセン
後期・1単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。</p> <p>第1回 About The Weather 第2回 About The Weather 第3回 About Money 第4回 About Money 第5回 About Shopping 第6回 About Shopping 第7回 About Birthdays 第8回 About Birthdays 第9回 About Clothes 第10回 About Clothes 第11回 About Directions 第12回 About Directions 第13回 About Home 第14回 About Home 第15回 Overall Review</p> <p>必要に応じて、英会話の力を養う。</p>	
<p><準備学習等の指示> 休まないこと。会話に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室で配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

外国語科目・選択	
ドイツ語Ⅱ a	福嶋 揚
前期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語神学書の講読。神学的な諸概念と思考法の習得。	
<授業の概要> 現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論が持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。	
<履修条件> 初級文法を習得していること。	
<授業計画> 1. 序論 ユンゲルの著書への入門など 2. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1) 旧約聖書より 3. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2) 新約聖書より 4. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1) ルター 5. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) メランヒトン 6. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) 和協信条 7. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3) トリエント公会議の教令 8. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1) カール・バルト 9. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2) ハンス・キュンク 10. Jünger, 1-4. (頁数。以下同様。) 11. 4-11. 12. 43-48. 13. 48-52. 14. 52-58. 15. 58-65.	
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。	
<テキスト> Eberhard Jünger, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³1999. その他のテキストは必要に応じて配布する。	
<参考書> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。	

外国語科目・選択	
ドイツ語Ⅱ b	福嶋 揚
後期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語神学書の講読。神学的な諸概念と思考法の習得。	
<授業の概要> ドイツ語Ⅱ a(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。	
<履修条件> 初級文法を習得していること。	
<授業計画> 1. Jünger, 65-74. (頁数。以下同様。) 2. 75-86. 3. 86-97. 4. 97-106. 5. 106-114. 6. 114-125. 7. 126-143. 8. 143-155. 9. 156-169. 10. 169-180. 11. 180-190. 12. 191-201. 13. 201-209. 14. 210-220. 15. 221-234.	
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。	
<テキスト> Eberhard Jünger, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³1999. その他の資料は必要に応じて配布する。	
<参考書> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。	

保健体育科目	
体育 I	高橋 伸
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>自らの日常生活、仕事などにおける諸活動を有意義に過ごすために、運動を中心としたレクリエーション活動の基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、他者への働きかけの方法も学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。</p> <p>2. 宣教・教会活動などに役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、及び指導法の習得を目指す。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方） 2. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 1（準備体操の意義、正しい体操の方法、ウォーキングフォーム、脈拍を使った体力、運動強度の見極め方） 3. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 2（同上） 4. ソフトボール 1 *東神大運動会に向けて（用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本） 5. ソフトボール 2（試合へ向けての基礎技術／キャッチ&スロー、ピッチング、連係プレー） 6. ソフトボール 3（基本ルールを理解、模擬試合） 7. ニュースポーツ 1（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方） 8. ニュースポーツ 2（ガガ、ユニホック／ルール・安全管理の理解、指導法、実習） 9. ニュースポーツ 3（カップ／ルール・安全管理の理解、指導法、実習） 10. ニュースポーツ 4（ペタンク／ルール・安全管理の理解、指導法、実習） 11. ニュースポーツ 5（クロッカー／ルール・安全管理の理解、指導法、実習） 12. キャンプ・クラフト 1（火起し／用具の理解、火起こしの基本、お湯沸かし） 13. キャンプ・クラフト 2（飯盒炊飯／飯盒炊飯の方法、焚き火の管理法） 14. レクリエーション指導法（集団をリードするための具体的指導法） 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動できる服装、又は活動相応の服装（キャンプ・クラフト）で参加すること。 2. 体調に留意すること。 	
<p><テキスト></p> <p>適時、講師が準備する</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全授業回数数の 2 / 3 以上出席したものに対して評価を行う。 2. 技術（60%）・知識（20%）・態度（20%）について評価する。 	

保健体育科目	
体育Ⅱ	岡田 光弘
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>身体を動かす楽しさと喜びを認識し、各自の体力に合わせてながら、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、生涯スポーツの基礎を獲得します。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>硬式庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得します。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得します。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学びます。 	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. コーディネーション・トレーニングの理論と実践 3. フォアハンドボレー、バックハンドボレー（以下、テニス） 4. フォアハンド・ストローク 5. バックハンド・ストローク 6. サービスとレシーブ 7. テニスのルールと用具の歴史、ミニゲーム 8. ダブルス・ゲーム 9. シングルス・ゲームとテニスのまとめ 10. ピンポン、卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 11. バックハンド・ショート（またはハーフボレー）、ドライブ 12. フォアハンド・ストローク（ドライブ打法） 13. 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 14. シングルスとダブルスの試合 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。 	
<p><テキスト></p> <p>井上俊・菊幸一（編）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房 （購入の必要はありません。）</p>	
<p><参考書></p> <p>橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社 （購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>技能：60% 時間ごとの観察により評価します。 知識：20% 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20% 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。 出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学I	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ>旧約聖書正典形成史、本文伝承史、モーセ五書批判を概説し、もって旧約聖書とは何かという問いに、歴史的文献学的見地から取り組む。</p>	
<p><授業の概要>旧約聖書正典の成立過程、およびその歴史的背景を概説し、正典として確定した本文の伝承の歴史を概観する。その後、モーセ五書批判の諸問題を考察する。</p>	
<p><履修条件>神学基礎科目Aを履修済みまたは並行して履修していること。 旧約聖書神学IはII、IIIより先に受講することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、近代の旧約聖書研究（1）「旧約聖書神学」のものの考え方 旧約聖書緒論について 緒論学の歴史：アイヒホルンからヴェルハウゼンまで 2. 近代の旧約聖書研究（2）歴史的に考えるとはどういうことか。 緒論学の歴史：宗教学派と伝承史研究、最近の動向 3. 正典とは何か 正典の位置づけ、正典論と正典批判、新約と旧約 4. 旧約正典形成史 サマリア五書 クムランの聖書 5. 正典と本文 本文批判の位置づけ、ヒブル語本文の確立、ヒブル語本文の伝承 6. ヒブル語本文伝承の歴史 ソーフェリーム、マソラ、本文校訂の歴史 7. ギリシャ語訳旧約聖書その他の古代訳概説 七十人訳とその改訂作業の歴史、そのほかのギリシャ語訳、 オリゲネスの業績、ヒエロニムス 8. モーセ五書批判とは何か 9. モーセ五書批判 文書仮説 10. モーセ五書批判 伝承史 11. 「ヤーウィスト」と「エローヒスト」 12. 「申命記的歴史家」と「祭司」 13. 「祭司文書」「祭司的編集」あるいは「祭司的改訂」 14. 物語と法、預言者への展望 15. まとめと知識の確認 	
<p><準備学習等の指示>旧約聖書、とくにモーセ五書を熟読すること。</p>	
<p><テキスト>左近淑『旧約聖書緒論講義』教文館（2004年増刷版）。現在はオン・デマンド。 第1回授業までに各自で購入のこと</p>	
<p><参考書>今回は、新しいレジюмеを作成しながら授業を進める。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。 理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学II	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書諸文学の成立過程とその歴史的背景から、旧約正典ならびにユダヤ教正典の構造（律法と預言者）と諸文書間の緊張関係を明らかにする。</p>	
<p><授業の概要>申命記と申命記的歴史、歴代誌的歴史、知恵文学、さらに詩文学の概要を学び、それらの神学的意味を考察する。また、旧約聖書の全体構造、ユダヤ教正典の全体構造の意味を究明する。</p>	
<p><履修条件> 「旧約聖書神学I」を履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <モーセのような預言者たち そしてヨブ> 律法と諸文学 2. <申命記的歴史であることとしるしと範囲> M・ノートの功績 3. <申命記的歴史家は一人だったか> M・ノートを越えて 4. <歴史の中に残っている諸伝承 そして「最古の歴史文学」> 5. <申命記と申命記的歴史> 王国末期の法と捕囚後の法 および法と物語 6. <歴代誌的歴史> 歴史のもう一つのヴァージョン 7. <エズラとネヘミヤは、いつ国に帰ってきたか> 歴代誌的歴史の背景 8. <ユダヤ教の成立と正典> サマリヤ教団の成立は、正典成立の証拠になるか 9. <知恵文学の国際性> エジプト、エドム、、、、 10. <ヨブ記> 神義論的問いと、非神義論的答え 11. <コーヘレトと箴言> 生きる意味と知識の限界 12. <律法の賛歌> 五書に向かい合う讃美 13. <訴えの詩> 苦難の時に 14. <詩編の読み方> 御言葉に生きる 15. <まとめと知識の再確認> 	
<p><準備学習等の指示> 旧約聖書の諸文学を熟読すること。</p>	
<p><テキスト> 左近淑『旧約聖書著論講義』教文館（2004年増刷版）。現在はオン・デマンド。第1回授業までに各自で購入のこと</p>	
<p><参考書> 今回は新しいレジュメを作りながら授業を進める。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は、クリスマス前に提示する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅲ	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 預言者とは何か、また預言書とは何か。そもそも預言とは何なのか。この本質的な問題について概論的に考察する。</p>	
<p><授業の概要> まず預言者総論を学び、各論として各文書を学ぶ。また黙示文書も扱う。</p>	
<p><履修条件> 旧約神学Ⅰを履修済みまたは並行して履修中であること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 預言者総論：問題点と研究史外観 3. 預言者総論：古典預言者の否定的同定と肯定的同定 4. 第1イザヤ：イザヤ書の構成、イザヤの召命 5. 第1イザヤ：メシア預言の成立 6. 第2イザヤ：独自性と統一性、精神的環境 7. 第2イザヤ：歴史回復の神学 8. 第3イザヤ 9. エレミヤ：内容区分と編集、エレミヤの時代 10. エレミヤ：エレミヤの活動、エレミヤのメッセージ 11. エゼキエル：エゼキエルとエゼキエル書 12. 十二小預言者：十二小預言書の位置づけと内容、最近の研究 13. ダニエル書：黙示文学とは何か、ダニエル書の概説 14. 質疑応答 15. 全体的総括 	
<p><準備学習等の指示> 教科書をよく読み、また引用される重要な聖書箇所を精読して、預言について問題意識を持つこと。</p>	
<p><テキスト> 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館、を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に試験をし、それによって成績をつける。理由なく三分の一以上欠席した場合は、試験を受けることができない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書積義 a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件> 当年度中に a bとも登録すること
<授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して積義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。	
<授業の概要> 言語学的、文献学的、文学的、歴史学的方法と知見を土台とする積義が、どのようにして神学的営為となりうるか、神学的に考えるとどのようなことであり、積義においてどのように位置づけられるかを論じる。また神学辞典や注解書など、第二次文献の使い方を解説する。今回は「アブラハムの執り成し」について考える。	
<履修条件> 旧約聖書神学 I を履修済みであることが望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積義の道具立て 2. 聖書翻訳の問題 3. 注解書ガイド 4. 本文批判 5. 文献批判 6. 伝承史 もともとどのような物語であったか 7. 編集史 8. 様式史の思想的基盤と問題点 9. テキストの最終形態 10. 歴史的文脈と積義 11. テキストの神学的考察 12. 正典批判と影響史 教会ではどう理解されてきたか 13. 積義の手順 14. 積義と説教 15. まとめと知識の再確認 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> 普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。また、授業内容のレジメを毎回配付する。	
<参考書> 第一回授業の中で積義方法論の教科書とその入手方法を紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、小レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書積義b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件> 当年度中にa bとも登録すること
<授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して積義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。	
<授業の概要> 旧約聖書積義aで学ぶ積義方法を、具体的な旧約テキストに適用して積義を試みる。本年度は創世記18-19章のテキストを読む。	
<履修条件> 本年度に旧約聖書積義aを履修したことを前提とするが、bのみの履修可。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創世記18-19章はどういう話であると思うか 2. 諸翻訳の読み比べ 3. 注解書ガイド 4. 本文の問題と難読箇所 5. テキストの形 6. 伝承史 7. 文脈の中でどういう意味を持つようになったか。 8. ソドムとは何か 9. 教会におけるアブラハム 10. 積義レポートの書き方 11. 歴史的文脈 12. 神学的考察 13. 正典批判 14. 積義と説教 15. まとめ 	
<準備学習等の指示> 授業は演習形式で行うので、各回の授業に先立って、扱われる方法をテキストに適用してみることに。	
<テキスト> 普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。また、授業内容のレジюмеを毎回配付する。	
<参考書>	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業最終日に十戒(またはその一部)に関する積義レポートを提出する。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学 I	中野 実
前期・2単位	<登録条件>主として学部2～3年生のクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ>新約聖書を学問的に読むことの信仰的神学的意義について考え、理解する能力をやしなうことがこのクラスの目標。</p>	
<p><授業の概要>新約聖書神学 I では、主に講義を通して、まず序論として、聖書とはなにか、聖書学、聖書神学とは何か、聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論として、福音書について学ぶ。</p>	
<p><履修条件>新約聖書神学 II と通年で履修する事。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 聖書を学問的に読むとは？ 聖書とは何か？ ② 聖書を学問的に読むとは？ 聖書を学問の対象にするとは？ ③ 聖書を学問的に読むとは？ 聖書学とは？聖書の批判的研究。 ④ 聖書を学問的に読むとは？ 近代、現代聖書学のルーツとその展開 ⑤ 新約聖書とは何か？ 新約聖書という名称について ⑥ 新約聖書とは何か？ 旧約聖書について ⑦ 新約聖書とは何か？ 新約聖書の文学、初期キリスト教文学としての新約聖書 ⑧ 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書①正典とは？ ⑨ 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書②正典化プロセス ⑩ 新約聖書とは何か？ 新約聖書の写本について ⑪ 新約聖書とは何か？ 新約聖書の時代史について ⑫ 福音書とは何か？ 福音と福音書 ⑬ 福音書文学： 福音書は伝記か？ ⑭ 共観福音書問題 1 共観福音書とは何か？それらをめぐる諸仮説 ⑮ 共観福音書問題 2 マルコ優先説、二資料仮説、Q 資料などについて <p>顔ぶれ、進み具合などを考慮しつつ、授業計画を変更する場合がある。</p>	
<p><準備学習等の指示>聖書を日頃からよく読むこと。</p>	
<p><テキスト>旧・新約聖書。 旧約聖書も必ず持ってくる事。</p>	
<p><参考書>樋口、中野『聖書学用語辞典』日本キリスト教団出版局、およびタイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』教文館。その他、必要な物は、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象としない。出席（+クラスでの姿勢）に加え、聖書クイズ、聖書学用語のテスト、レポートなどによって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅱ	中野 実
後期・2単位	<登録条件>学部2～3年生が中心のクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ>主に講義を中心に、新約聖書の四福音書に関する理解を深めることが目標。</p>	
<p><授業の概要>内容的には、新約聖書神学Ⅰの続き。前期に学んだ福音書研究に関する基本的知識を前提に、四つの正典福音書について学ぶ。</p>	
<p><履修条件>新約聖書神学Ⅰと通年で履修する事。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題 ② マルコ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 ③ マルコ福音書：神学的諸問題 ④ マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題 ⑤ マタイ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 ⑥ マタイ福音書：神学的諸問題 ⑦ ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題 ⑧ ルカ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 ⑨ ルカ福音書：神学的諸問題 ⑩ ヨハネ福音書：歴史的諸問題 ⑪ ヨハネ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 ⑫ ヨハネ福音書：神学的諸問題 ⑬ ルカ文書について ⑭ ヨハネ文書について ⑮ まとめ <p>顔ぶれ、進み具合を考慮しつつ、スケジュールに変更を加える場合がある。</p>	
<p><準備学習等の指示>新約神学Ⅰの項目を参照。</p>	
<p><テキスト>旧・新約聖書。後期になったら、ギリシア語の新約聖書も持参すること。</p>	
<p><参考書>必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。その他、クラスでの姿勢、試験（あるいはレポート）などによって、総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅲ	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>使徒パウロの伝道活動と神学をパウロ書簡、特にコリントの信徒への手紙一を通して学ぶ。	
<授業の概要>パウロの活動、書簡の概観の後、コリントの信徒への手紙一を毎回一章ずつ読み、検討する。	
<履修条件>ギリシア語履修済みのこと。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パウロの伝道旅行 使徒言行録とパウロ真正書簡の比較による概観 2. コリントー1章、16章 手紙の始まりと終わり 3. コリントー2章、十字架の言葉 4. コリントー3章、霊の人と肉の人 5. コリントー4章、パウロの使命 6. コリントー5章、6章、教会内での紛争の処理 7. コリントー7章、結婚について 8. コリントー8章、偶像に供えられた肉 9. コリントー9章、使徒の権利とパウロの権利放棄 10. コリントー10章、悪霊とは 11. コリントー11章、礼拝における秩序の問題 12. コリントー12章、13章、愛 13. コリントー14章、異言と預言 14. コリントー15章、キリストの復活 15. 総括 	
<準備学習等の指示>復習のために毎回定められた課題の提出、予習のために当日の聖書箇所、テキストを読んで出席すること。	
<テキスト>R.B.ヘイズ『現代聖書注解 コリントの信徒への手紙一』日本基督教団出版局、2001年各自準備のこと。	
<参考書>適宜紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席状況、授業参加、課題、期末試験を総合的に評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書釈義 a	中野 実
前期・2単位	<登録条件>学部4年を中心としたクラス
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ事が目標	
<授業の概要>前期は、概論ののち、フィー『新約聖書の釈義』を用いながら、釈義の方法を学ぶ。	
<履修条件>ギリシア語を既に履修済みである事。通年で履修する事。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション：クラスの目標と課題について ② 釈義とは何か？ 釈義の具体的課題について ③ フィー『新約聖書の釈義』序論および第1章「釈義の全過程についての手引き」 ④ ステップ1 歴史的脈略の概観 ⑤ ステップ2 章句の区切りの確認 ⑥ ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：説明 ⑦ ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：実践：暫定訳の作成、他の翻訳との比較など。 ⑧ ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：説明 ⑨ ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：実践、文の流れの図式化 ⑩ ステップ5 本文の確定：本文批評の説明 ⑪ ステップ5 本文批評の実際 ⑫ ステップ6 文法の分析：説明 ⑬ ステップ6 文法の分析：実践 ⑭ 説教のための釈義とは？ ⑮ 説教の準備について <p>顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。</p>	
<準備学習等の指示>釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義はある意味で職人芸。苦勞して身につけるしか道はない！	
<テキスト>ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』永田訳（教文館、1998年）。クラスの初回までに各自が購入しておくこと。旧・新約聖書およびギリシア語の新約聖書。	
<参考書>必要に応じて、クラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>出席重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。毎回のクラスでの姿勢、期末の課題（試験あるいはレポート）などによって、総合的に評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書釈義 b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>学部4年を中心としたクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ>新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ事が目標。</p>	
<p><授業の概要>後期も引き続き、フィー『新約聖書の釈義』を用いつつ、近・現代の聖書学において培われてきた方法論を具体的に学ぶ。学期末には、歴史批評学的方法論を乗り越えようとする新しい方法論についても講義を通して学ぶ予定。</p>	
<p><履修条件>ギリシア語を既に履修済みである事、通年で履修する事。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① フィーの教科書のつづき、ステップ7 語の分析：説明 ② ステップ7 語の分析：実践 ③ ステップ8 歴史的文化的背景の探求：説明、文献紹介 ④ ステップ8 歴史的文化的背景の探求：具体例 ⑤ 書簡の釈義 ステップ9 書簡文学の特徴と形式について ⑥ 書簡の釈義 ステップ9 書簡文学の修辭的分析について ⑦ 書簡の釈義 ステップ10 小区分、読者、キーワードなどの分析 ⑧ 書簡の釈義 ステップ11 文学的コンテクストの確定 ⑨ 福音書の釈義 福音書テキストの性質、福音書をめぐる諸仮説 ⑩ 福音書の釈義 ステップ9 福音書の文学類型、 ⑪ 福音書の釈義 ステップ9 福音書の文学的様式、伝承 ⑫ 福音書の釈義 ステップ10 共観表の使い方 ⑬ 福音書の釈義 ステップ11 史的イエス研究 ⑭ 歴史批評学的方法論の限界、それを乗り越える方法論 ⑮ まとめ <p>顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。</p>	
<p><準備学習等の指示>前期の項目を参照。</p>	
<p><テキスト>前期の項目を参照。</p>	
<p><参考書>必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象とはしない。出席、クラスでの姿勢、期末の課題などをとおして、総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅰ（1,2）	三永 旨従
前期・4単位	<登録条件>ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 前期は基本的文法を中心とする。 新約聖書のギリシャ語理解のために、テキストに則して基本文型を身につけていく。目的はあくまで新約文書群の読解にあるために練習問題は、ギリシャ語の日本語訳に限定する。授業の合間に、少しずつ、ギリシャ語新約聖書に慣れることも同時に行なう。前後期を通じ、特に原典で新約文書群を読むことの具体的な意義、及びそこから生じる違いについても学んでゆく。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新約聖書を原典で読むことについて 2. 写本について 3. 新約聖書のギリシャ語の特色 4. 文字と発音 5. 単語と音節 6. ギリシャ語のアクセントの特色 7. 句読点 8. ギリシャ語動詞の活用について 9. 動詞活用－現在形 10. ギリシャ語名詞の特色 11. 名詞の変化－男性形 12. 名詞の変化－女性形 13. ギリシャ語前置詞の特色 14. 前置詞の用法 15. 受動形能動態について 16. 中動形動詞のいろいろ 17. 動詞活用－中動形 18. 動詞活用－受動形 19. ギリシャ語人称代名詞の特質 20. 人称代名詞 21. 未完了形動詞の特質 22. 動詞活用－未完了形 23. ギリシャ語の過去時制について 24. アオリスト形動詞の特質 25. 動詞活用－第一アオリスト形 26. 動詞活用－第二アオリスト形 27. ギリシャ語の形容詞の特質 28. ギリシャ語の形容詞の性、数、格 29. 形容詞の変化－男性形 30. 形容詞の変化－女性形 	
<p><準備学習等の指示> 暗記すべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自さらにはグループ学習で反復練習する時間を取ることが望ましい。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大貫隆著『新約聖書 ギリシャ語入門』岩波書店（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。） 	
<p><参考書> なし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（口頭試問）</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅱ	三永 旨従
後期・2単位	<登録条件>ギリシャ語Ⅰの履修
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ギリシャ語文法の理解と読解能力を習得していく中で、新約聖書原典を辞書その他の手段を用いながらも一人で読解できる能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ギリシャ語Ⅰに続けて基礎文法を終わらせ、具体的な新約文書群の読解に入る。各授業毎にギリシャ語特有の文法体系に由来する特徴を具体的にテキストにあたって学ぶ。基本文法を終わらせると同時に、実際に新約文書群を読む際に、大きな障害となり易い点（分詞構文、不定詞構文等）にも焦点をあてる。上記の留意点を考慮しつつ、より平易な新約文書を実際に読んでいく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシャ語Ⅰの履修</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の変化一分詞 2. 母音融合動詞 3. 流音動詞 4. 動詞の変化－不定法 5. 動詞の変化－希求法 6. 疑問代名詞 7. 関係代名詞 8. 動詞の変化－命令法 9. 特殊形動詞 10. 冠詞とその用法 11. 動詞の変化－接続法 12. 数詞 13. 独立属格の構文 14. 不定詞+名詞の目的格の構文 15. 分詞の述語的用法 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>暗記すべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自反復練習する時間を取ることが望ましい。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大貫隆著『新約聖書 ギリシャ語入門』岩波書店（学生各自で用意する。） ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE または UBS 版 Greek New Testament（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。） 	
<p><参考書></p> <p>なし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（筆記試験）</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学 I a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教の基本的な教理全般について、必要な知識を身につけ、神学の総合的理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 前期は神学の方法論、啓示論、聖書論、信条論、神論、三位一体論、創造論、人間論について学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 神学通論を同時に履修していること。</p>	
<p><授業計画> 第1回： 神学の生の座について考察する。 第2回： 自然と歴史における神の啓示について考察する。 第3回： 神の名の啓示と神の人格性について考察する。 第4回： 啓示の三位一体的構造について考察する。 第5回： 聖書のテキスト性について考察する。 第6回： 聖書の権威について考察する。 第7回： 聖書の正典性について考察する。 第8回： 聖書の解釈について考察する。 第9回： 信条と教理について考察する。 第10回： 神の存在について考察する。 第11回： 三位一体論について考察する。 第12回： 創造の業について考察する。 第13回： 神の像としての人間について考察する。 第14回： 摂理について考察する。 第15回： これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> ノートをこまめに取り、内容をそのつど正確に把握しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 授業の中で適宜指示する。</p>	
<p><参考書> 芳賀力『神学の小径Ⅰ』教文館、2008年。芳賀力『神学の小径Ⅱ』教文館、2012年。希望者には著者割引で頒布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に、提示した主題についてレポートをまとめ、提出してもらう。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学 I b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教の基本的な教理全般について、必要な知識を身につけ、神学の総合的理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 後期は罪論、キリストの人格と業、救済論、聖霊論、教会論、聖礼典論、終末論について学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 神学通論を同時に履修していること。</p>	
<p><授業計画> 第1回： 罪の問題について考察する。 第2回： キリストの人格について考察する。 第3回： キリストの業について考察する。 第4回： キリスト論の成立について考察する。 第5回： 救済の祭儀的な語りについて考察する。 第6回： 救済の軍事的な語りについて考察する。 第7回： 救済の商法的な語りについて考察する。 第8回： 救済の民法的な語りについて考察する。 第9回： 救済の刑法的な語りについて考察する。 第10回： 救済の存在論的な語りについて考察する。 第11回： 聖霊と聖化について考察する。 第12回： 教会と選びについて考察する。 第13回： 洗礼と聖餐について考察する。 第14回： 神の国について考察する。 第15回： これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> ノートをこまめに取り、内容をそのつど正確に把握しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 授業の中で適宜指示する。</p>	
<p><参考書> 芳賀力『救済の物語』日本基督教団出版局、1997年。希望者には著者割引で頒布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に、提示した主題についてレポートをまとめ、提出してもらう。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅱ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>組織神学Ⅱb と通年で登録（履修）すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教倫理学の基礎および諸問題について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 前期は主にキリスト教倫理の形成に取り組むにあたっての予備的議論を扱う。</p>	
<p><履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序——過渡期のキリスト教倫理学 2. I. キリスト教倫理と倫理的課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理的課題、2) 一般倫理の諸側面、3) 行為についての規範的倫理学の形成 3. 4) 倫理学と価値についての理論、5) 存在についての規範的倫理学の形成 4. 6) 倫理学の正当化 5. 7) 正当化の諸説 II. ギリシャの倫理学的伝統 <ol style="list-style-type: none"> 1) キリスト教とギリシャの倫理学的伝統、2) プラトン 6. 3) アリストテレス 7. 4) エピクロス、5) ストア派 8. 6) プロティノス III. 聖書の倫理 <ol style="list-style-type: none"> 9. 1) 旧約聖書 10. 2) イエス 11. 3) パウロ 12. IV. 伝統的モデル <ol style="list-style-type: none"> 1) アウグスティヌス 13. 2) トマス・アクィナス 14. 3) 宗教改革者達 15. 前期のまとめ 	
<p><準備学習等の指示> よくノートをとること。</p>	
<p><テキスト> H・リチャード・ニーバー、『キリストと文化』、赤城泰訳、(日本キリスト教団出版局、オンデマンド)。</p>	
<p><参考書> 特になし。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題と期末のレポートによる。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅱ b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>組織神学Ⅱ a と通年で登録（履修）すること
<授業の到達目標及びテーマ> 前期と同じ。	
<授業の概要> 後期は、キリスト教倫理の形成について考える。	
<履修条件> 前期と同じ。	
<授業計画> 1. V. 現代的モデル 1) 社会秩序のキリスト教化、2) 超越の倫理学 2. 3) 規範としての愛、4) 弟子の倫理 3. 5) 解放の倫理学 4. 6) 徳と性格、7) 福音派 5. 8) まとめ VI. キリスト教倫理と現代の状況 1) 現代の状況 6. 2) キリスト教倫理と人間の倫理的探求①普遍性・②神の意志・③善・④人間中心性 ・⑤キリスト教による変革 7. 2) キリスト教倫理と人間の倫理的探求⑥自然主義からの脱出・⑦キリスト教倫理の普遍性 3) 共同体に基礎を置くキリスト教倫理学①全体性・②徳 8. 3) 共同体に基礎を置くキリスト教倫理学③潜在的危険・④諸宗教の伝統 ・⑤キリスト教倫理の独自性 9. VII. キリスト教倫理学の基礎 1) 啓示 10. 2) 神学的基礎①神 11. 2) 神学的基礎②人間・③キリスト教的生活の中心・④倫理的生活の方向性 12. VIII. キリスト教倫理の内容——包括的愛 1) キリスト教的な愛の理解の基礎 13. 2) 愛の倫理、3) 愛とキリスト教倫理、4) 愛の倫理とキリスト教共同体 14. おわりに——礼拝と倫理 15. 後期のまとめ	
<準備学習等の指示> (前期と同じ。)	
<テキスト> (前期と同じ。)	
<参考書> 特になし。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題と期末のレポートによる。	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅲ a	須田 拓
前期・2単位	<登録条件> 組織神学Ⅲb と通年で登録することが望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学の中の弁証学について、その基礎知識を身につけると共に、現代世界での伝道について考える。</p>	
<p><授業の概要> 弁証学とは何か、またその歴史について講義した上で、悪の問題について、及び無神論の問題について、どのようにキリスト教の真理性を弁証可能か検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、弁証学とは何か 第2回 弁証学の方法と可能性 第3回 弁証学の歴史(1) 古代教父(i) (ユスティノスなど) 第4回 弁証学の歴史(2) 古代教父(ii) (アウグスティヌスなど) 第5回 弁証学の歴史(3) 近代の神学者 (シュライエルマッハー) 第6回 弁証学の歴史(4) 現代の神学者 第7回 中間総括 第8回 悪の問題 (神義論) (1) 神義論の課題 第9回 悪の問題 (神義論) (2) 悪の起源と正体について 第10回 悪の問題 (神義論) (3) 悪の克服の問題の前提としての創造論 第11回 悪の問題 (神義論) (4) 悪の克服 第12回 無神論(1) 無神論の諸相 第13回 無神論(2) 無神論への応答 第14回 信仰と理性 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 特になし。授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > 授業への参加状況およびレポートによって評価する。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅲ b	須田 拓
後期・2単位	<登録条件> 組織神学Ⅲa と通年で登録することが望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学の中の弁証学について、その基礎知識を身につけると共に、現代世界での伝道について考える。</p>	
<p><授業の概要> 前期に引き続いて、歴史や近代の文化価値、「宗教の神学」「日本の神学」といったテーマに取り組む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 神と歴史(1) 歴史とは何か 第3回 神と歴史(2) 救済史と歴史の意味 第4回 近代世界の文化価値(1) 近代世界の成立とキリスト教 第5回 近代世界の文化価値(2) 自由(i) (寛容と市民社会の自由) 第6回 近代世界の文化価値(3) 自由(ii) (自由の弁証) 第7回 近代世界の文化価値(4) 人格 第8回 中間総括 第9回 宗教の神学(1) 「キリスト教の絶対性」と他宗教の存在 第10回 宗教の神学(2) 多元主義について 第11回 宗教の神学(3) 包括主義について 第12回 日本の文脈(1) 近代の観点から 第13回 日本の文脈(2) 日本人の宗教観 第14回 日本の文脈(3) 日本伝道を目指して 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 特になし。授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加状況およびレポートによって評価する。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史 I	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 学部3年で履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会史の出発点にあたる古代教会史は、その後続く教会史のしくみや基礎をすえた時代である。そうした古代教会史の意義と発展の姿を史料や講義を通し学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 1) 古代ローマ帝政期の地中海世界に誕生した古代教会の形成と発展の過程を、二期に分けて、古代異教社会の「キリスト教化」の運動として考察する。2) 考察の焦点は、文明環境の社会・宗教的变化、国家と教会、教皇制の発展、教理神学、霊的生活の形成と伝道などである。</p>	
<p><履修条件> 世界史の基礎知識がある程度必要とされる。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 コース紹介、序論の講義：教会史をどう見るのか？古代教会史の学びの意義はなにか？</p> <p>第2回 古代ローマ文明の社会・宗教的变化概観（1）：「キリスト教化」をめぐるマクマーレン理論の紹介。</p> <p>第3回 社会・宗教变化概観（2）：P. ブラウンの理論の紹介と議論。議論の総括。</p> <p>第4回 国家と教会（1）：初期ローマ帝政期の宗教政策からコンスタンティヌス帝のキリスト教改宗までの政教関係の変化（BC27-AD313）を史料と講義でたどる。</p> <p>第5回 国家と教会（2）：コンスタンティヌスの改宗からフランク王国の成立まで（AD313-750）をたどる。</p> <p>第6回 中間試験（30分）。古代教会の職制の発展（1）：全般的な発展概観。</p> <p>第7回 職制の発展（2）：ローマ教皇制の発展を史料を読みつつ考える。</p> <p>第8回 教理と神学（1）：啓示、聖書と伝統をテーマとして、教理神学の発展をたどる。</p> <p>第9回 教理と神学（2）：三位一体論とキリスト論の教理の発展を描く。</p> <p>第10回 教理と神学（3）：救済論と教会論の発展を考察する。</p> <p>第11回 教理と神学（4）：東方教父：オリゲネスとアタナシオス神学について論じる。</p> <p>第12回 教理と神学（5）：西方教父：テルトゥリアヌスとアウグスティヌス神学を論じる。</p> <p>第13回 霊的生活：修道院運動の発展とゲルマン伝道について分析する</p> <p>第14回 結論：古代世界の「キリスト教化」運動が現代に意味するもの。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 予習よりも、復習に重きをおくこと。</p>	
<p><テキスト> 1. 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館。2. 木下他『詳説世界史研究』山川出版社（最新の増補改訂版）。</p>	
<p><参考書> 1. J. ダニエルー『キリスト教史1 初代教会』平凡社ライブラリー。2. H. J. マルー『キリスト教史2 教父時代』平凡社ライブラリー3. P. Brown, <i>The World of Late Antiquity</i>, W. W. Norton. 4. N. ブロッククス、関川訳『古代教会史』教文館。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 期末試験、中間試験、授業出席などを総合して評価する。2. 授業を1/3以上無断欠席した者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅱ	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 学部3年次生以上
<p><授業の到達目標及びテーマ> 古代末期から中世末期（AD250－1500）までの西欧教会史の概観と意義の解明を目指す。</p>	
<p><授業の概要> 西欧教会史を、文明世界史的に三期(初期、盛期、後期)に分け「文明の変動」、「国家と教会」および「霊的生活と教理神学」に焦点をしばり概観する。</p>	
<p><履修条件> 西欧世界史の知識が必要なので、学部3年次生以上の履修が望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>これらの学びを通して、実践的には、①カトリック教会、正教会、プロテスタント教会の歴史的－エキュメニカルな関係、②日本の古代・中世文明と西欧中世文明との比較を通して特徴を学ぶ。</p> <p>第1回. コースの紹介、質疑応答。 第2回. 初期中世（700－1050）：伝道とキリスト教化の時代：（1）文明の変動 第3回. 同上（2）国家と教会 第4回. 同上（3）教理神学の形成 第5回. 同上（4）霊的生活の形成：禁欲運動と修道院運動 第6回. 盛期中世（1050－1270）：文明の膨張と円熟の時代：（1）文明の変動 第7回. 同上（2）国家と教会 第8回. 同上（3）新しい托鉢修道運動や異端運動 第9回. 同上（4）教理神学全般 第10回. （5）トマス・アキナスの神学 第11回. 後期中世（1270－1500）：文明の変動、分裂、改革の時代：（1）文明の変動 第12回. 同上（2）国家と教会 第13回. 同上（3）教理神学 第14回. 同上（4）結論：後期中世から宗教改革へ。 第15回. まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義を中心とする。</p>	
<p><テキスト></p> <p>棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館（各自購入） 木下他『詳説世界史研究(増補改訂版)』山川出版（各自購入） プリント（講義担当者が授業毎に用意・配布）</p>	
<p><参考書> 授業の中で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>a. 定期試験（80％）と定期試験以外のもの（中間試験20％）の総合評価。 b. 出席を重視し、1/3以上無断で欠席しないこと。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅲ	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 宗教改革時代の教会史を講義する。基礎的な知識の習得とともに、宗教改革時代の教会史の歴史史料を読み、理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 16世紀初頭のルターによる宗教改革から初めて、スイス、ドイツ、イギリスなど、各地の宗教改革の歴史を時代ごとに概説する。同時に宗教改革時代の神学の特色を講義する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宗教改革の背景Ⅰ 政治・社会的背景 2 宗教改革の背景Ⅱ 思想・神学的背景 3 ルターと宗教改革のはじまり ―ルターの内面の葛藤と95か条の提題 4 ルターの神学Ⅰ 「宗教改革三大文書と信仰義認論」 5 ルターの神学Ⅱ 「教会論とサクラメント論」 6 宗教改革の分裂 7 スイス宗教改革Ⅰ 「ツヴィングリの改革」 8 スイス宗教改革Ⅱ 「再洗礼派の出現と神学」 9 カルヴァンの改革と神学 10 ドイツ・プロテスタンティズムの確立 11 イングランド宗教改革 12 ピューリタニズム 13 スコットランド宗教改革 14 ディスカッション 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> この時代の世界史を復習しておくこと。木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の該当箇所を読んでおくことよい。</p>	
<p><テキスト> 特に定めない。講義のたびにレジメと資料を配布する。</p>	
<p><参考書> ウォーカー『キリスト教史Ⅲ 宗教改革』（ヨルダン社）（絶版）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 全出席を前提として、試験、レポートなどで総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅳ	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>特に無し
<p><授業の到達目標及びテーマ> 近・現代の教会史に関わる事項、人名、著作などの正確な知識を習得するとともに、近・現代の教会史の諸問題を整理して概観できる能力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 近・現代の教会史を講義する。基礎的な知識を十分に習得し、同時に歴史史料にあたりながら、近現代の教会史の理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 特に無し</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代の思想・哲学とキリスト教 2 イギリスの理神論 3 ドイツ敬虔主義の起源と特色 4 ドイツ敬虔主義の担い手たち 5 アメリカへのキリスト教の移植 6 アメリカの植民市形成 7 イギリスにおけるキリスト教—ウェスレートメソディズム 8 アメリカにおけるキリスト教—大覚醒時代 9 信仰復興運動とその影響、海外伝道 10 ドイツ啓蒙主義と神学思想 11 19世紀のイギリスにおけるキリスト教 12 ニューマンとオックスフォード運動 13 19世紀のアメリカ・プロテスタンティズム 14 エキュメニズムとキリスト教 15 総括と人名、事項関連の総括 	
<p><準備学習等の指示> 世界史の知識が不十分なものは、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の近現代の該当箇所を読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に定めないが、その都度プリントを配布する。</p>	
<p><参考書> ウォーカー『キリスト教史・近・現代のキリスト教』（ヨルダン社、但し品切）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 全出席を前提として、試験とレポートで総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅴ	小室 尚子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>日本におけるキリスト教宣教開始（16世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。異教社会での多くの試練を越えて、教会がどのように展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代日本において教会が抱える問題と課題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と3つのテーマによって講義を進める。</p>	
<p><履修条件></p> <p>宗教史Ⅱを履修済であることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 序論：教会史を学ぶ意義 第2回 キリスト教伝来前史 第3回 キリシタンの歴史（1549～1873） 第4回 キリシタンの教会形成 第5回 キリシタン文書に見る布教方針 第6回 プロテスタント・キリスト教の移入と展開 第7回 教会の形成期（1859～1912） 第8回 （1）日本基督公会時代とその後 第9回 （2）福音理解 第10回 （3）教育史における貢献と弾圧 第11回 聖書の翻訳 第12回 教会の発展期（1912～1926） 第13回 教会の試練と解放（1926～現代） 第14回 （1）戦時下、日本基督教団の成立 第15回 （2）現代、日本基督教団が抱えた問題と課題</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会 『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 教文館</p>	
<p><参考書></p> <p>初回講義において文献表配布とともに紹介する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポート（期末に提出）によって評価する。 授業への参加意識 出席が全講義回数の2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
宗教史 I	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 学部3年生が履修すること。
<授業の到達目標及びテーマ> 日本とアジア伝道の推進のためにも、教会史の学びとともに、宗教史の学びがどれほど大切であり、また役に立つかを、世界諸宗教の生活と歴史の検討を通して修得していきたい。	
<授業の概要> 本講義の視点である「文明世界史の一（国民）宗教史的考察」の方法を明らかにする。続いて、ケース・スタディとして日本を含む現代世界の諸文明と、諸宗教共同体の宗教史的な類型、発展を概観し、21世紀における世界宗教の環境の中でプロテスタント伝道と教会形成の諸課題を明らかにする。	
<履修条件> 世界史や教会史の基礎知識が必要とされるので、学部3年以上で履修するのが望ましい。	
<p><授業計画></p> <p>第1回 スケジュールの紹介、コースにかんする質疑応答。</p> <p>第2回 序論（1）：宗教研究の歴史と宗教史理論の紹介と課題の提起を講義により行う。</p> <p>第3回 序論（2）：本講義の「文明世界史－（国民）宗教史的」視点とはなにかを論じる。</p> <p>第4回 序論（3）：国家と宗教の関係についての概念、とくに市民宗教、公民宗教、政治的疑似宗教などの概念の整理を行う。</p> <p>第5回 ケース・スタディ（1）：世界におけるユダヤ教の宗教生活の特徴、歴史を資料と講義でたどる。</p> <p>第6回 ケース（2）：世界におけるギリシア正教とローマ・カトリック教会の性格や歴史をたどる。</p> <p>第7回 ケース（3）：世界におけるキリスト教、とりわけプロテスタント諸教派の歩みをたどる。</p> <p>第8回 ケース（4）：世界におけるイスラム教の宗教生活の特徴や歴史を論じる。</p> <p>第9回 ケース（5）：インド文明におけるヒンドゥー教の本質や歴史を紹介し、アジア伝道の課題を論じる。</p> <p>第10回 ケース（6）：南、東アジア文明における仏教の成立と伝播の特徴や歴史をたどる。</p> <p>第11回 ケース（7）：中国文明と諸宗教と題し、中国の伝統的宗教生活とその影響について論じる。</p> <p>第12回 ケース（8）：朝鮮、韓国文明における諸宗教として、とくに仏教、儒教、キリスト教などの展開と現代の韓国宗教事情などを学ぶ。</p> <p>第13回 ケース（9）：日本文明における諸宗教（1）として、とくに「日本教」の生活のなかで神道の伝統を学ぶ。</p> <p>第14回 ケース（10）：日本文明における諸宗教（2）として、とくに「日本教」内の仏教の土着化と変容の経験を学び、日本伝道の教訓を得たい。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<準備学習等の指示> 1. あらかじめ、テキストを読んでおくこと。2. だが、全体としては復習を重視すること。	
<テキスト> 後に指示する。	
<参考書> J. ヴァッハ『宗教の比較研究』渡辺学他訳（京都：法蔵館、1999）。脇本平也（つねや）『宗教学入門』講談社学術文庫（東京：講談社、2001）。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 期末試験、授業出席などを総合して評価を与える。2. 授業の1／3以上無断で欠席したものは、評価の対象としない。	

専門教育科目・歴史神学関係	
宗教史Ⅱ	小室 尚子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>宗教史Ⅱでは、日本における諸宗教（とくに古代における宗教形態、神道、仏教、儒教）の、歴史と日本的展開を概説するとともに、16世紀キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また単に、諸宗教の歴史を学ぶにとどまらず、課程修了後には、この日本においてキリスト教宣教の使命を担うことになる学生たちが、宣教活動において直面するであろう諸宗教に裏打ちされた日本の伝統的思想との交渉に、どのように対応していくのかを考え始めることも目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点 2. 宗教と世界観の関係 3. キリスト教の世界観 4. 日本宗教史概観 5. 日本人のカミ観念の形成 6. 仏教伝来と「神道」 7. 日本仏教とその特質 8. 「習合」という形態 9. 中国の宗教の日本的展開 10. 民衆の宗教と「日本宗教」 11. 日本キリスト教史概説 12. 日本とキリスト教：日本人の精神的伝統とキリスト教 13. 日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題（1） 14. 日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題（2） 15. まとめ：日本の教会の課題と使命 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>担当者がプリント教材を用意する。</p>	
<p><参考書></p> <p>初回授業において参考文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポート（期末に提出）による評価</p> <p>授業への参加意識</p> <p>出席が全講義回数数の2／3に満たないものは評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
実践神学概論 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教を扱う。</p>	
<p><履修条件> 学部最終学年において履修のこと。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 神学とは何か、実践神学とは何か 第2回 実践神学とは何か（その1）実践神学の歴史 第3回 実践神学とは何か（その2）「実践」と「神学」 第4回 実践神学とは何か（その3）さまざまな実践神学 第5回 実践神学とは何か（その4）伝道論としての実践神学 第6回 教会建設論（その1）教会建設論の歴史 第7回 教会建設論（その2）さまざまな教会建設論 第8回 教会建設論（その3）実践神学基礎論としての教会論 第9回 教会建設論（その4）伝道する教会の建設 第10回 説教（その1）説教とは何か 第11回 説教（その2）誰が説教するのか 説教者論 第12回 説教（その3）誰に説教するのか 聴衆論 第13回 説教（その4）どこで説教するのか 説教と礼拝 第14回 説教（その5）何を説教するのか 説教と聖書 第15回 説教（その6）いかに説教するのか 説教と修辞学</p>	
<p><準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット2 山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット27 R. ボーレン『説教Ⅰ』『説教Ⅱ』日本基督教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
実践神学概論 b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 実践神学諸科から、とくに礼拝学と牧会学の基礎をを扱う。</p>	
<p><履修条件> 学部最終学年において履修のこと。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 礼拝学（その1）礼拝を考える 第2回 礼拝学（その2）1、2世紀の教会の礼拝 第3回 礼拝学（その3）3、4世紀の教会の礼拝 第4回 礼拝学（その4）宗教改革の教会の礼拝 第5回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝 第6回 礼拝学（その6）わたしたちの礼拝再考 第7回 礼拝学（その7）聖礼典、礼拝堂 第8回 礼拝学（その8）教会暦、主日聖書日課、讃美歌 第9回 牧会学（その1）牧会とは何か 第10回 牧会学（その2）さまざまな牧会の理解 第11回 牧会学（その3）牧会の課題 第12回 牧会学（その4）牧会の場（結婚、病、死別） 第13回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙） 第14回 牧会学（その6）告解と相互牧会 第15回 牧会学（その7）教会法・戒規</p>	
<p><準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> レイモンド・アバ『礼拝 その本質と実際』教団出版局 E. トゥルナイゼン『牧会学 I』教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
キリスト教教育概論 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教育の歴史と、諸形態と、理論を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 二千年のキリスト教史における種々の教育形態の機能と意義を考察しながら、キリスト教教育の本質と目的を明らかにし、それを今日の教育的業に資するものとしたい。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教教育とは何か？ 一般教育との関連と相違 2. キリスト教教育と神学 3. 聖書における「教育」の理解 ― パウロ神学の場合 神学的人間理解に基づくキリスト教教育 4. 原始キリスト教時代-1. 使徒時代 5. 原始キリスト教時代-2. 使徒後時代 6. 古カトリック教会時代 7. 中世の学校：修道院（または僧院）学校（monastic school）、他 8. 中世の教育の特徴としての象徴主義―その意義と問題 9. 近世社会の諸特徴 2) 教育史上の特徴：ルネサンスと宗教改革 10. ルターとカルヴァンの教育思想と実践 4) カトリック教会の教育改革 11. プロテスタンティズムの教育運動 6) 近世後期ヨーロッパのキリスト教 12. 東北アジアのキリスト教教育 13. 現代 14. 現代的人間の特性とキリスト教教育 15. 伝道とキリスト教教育 	
<p><準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。</p>	
<p><テキスト> 特に指定はせず、その都度プリント配布する。</p>	
<p><参考書> John L. Elis, A History of Christian Education, Florida, 2002 その他、随時、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験の結果で評価する。 出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
キリスト教教育概論 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 日本におけるプロテスタント・キリスト教の教会、家庭、学校の歴史的経緯と実態を把握する。</p>	
<p><授業の概要> 日本におけるプロテスタント・キリスト教教育史を概観しつつ、教会、学校、家庭におけるキリスト教教育の意義と課題を明らかにする。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教会学校史(序、第一期～第五期) 2. 教会学校の意義と使命 3. 教会論的基礎づけ 4. キリスト教幼児教育について 5. その歴史的経緯 6. 幼稚園のキリスト教教育 7. 初等・中等教育—公教育の一環としてのキリスト教教育 8. 欧米におけるキリスト教学校の展開、他 9. 大学教育：1) キリスト教大学のヴィジョン 10. 日本の大学の意義と課題 11. 聖書の家庭教育 12. 教会史上の家庭教育 13. 家庭の教育的役割、 14. 家庭のキリスト教教育確立のために 15. キリスト教家庭教育の方策 	
<p><準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。</p>	
<p><テキスト> 『日本における教会教育の歩み』(1858～2006)、NCC 教育部歴史編纂委員会編、教文館、2007年、(5月発行) 各自注文して用意すること。</p>	
<p><参考書> 随時、授業の中で諸資料を紹介していく。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 定期試験の結果で評価する。 出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。</p>	

専門教育科目・学部演習	
旧約聖書学部演習 a	田中 光
前期・2単位	<登録条件> a, b 両方とも登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書神学とは何かということを歴史的に跡付けながら考察し、そのことによって得られた知識・洞察に基づいて、現在の聖書学の枠組みの中で、実際に旧約聖書を解釈する道を探る。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>前期は、主に旧約聖書神学が為されてきた歴史を辿ることに集中する。指定されたテキストに基づいて、各回の授業で学生にテーマに沿った発表をして頂き、それをもとにディスカッションを行う（但し、授業の中では、担当教員が総論的な説明を行う）。その際、適宜、実際の聖書テキストを読みながら議論を進める。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヘブライ語テキスト、英語の研究論文・研究書を読むための知識があることが望ましい（但し、これらの知識に心得が無くとも授業の発表・ディスカッションに参加できる方法を準備する）。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&イントロダクション: 「旧約聖書」を「神学的」に学ぶことの意義と必要性 2. 旧約聖書解釈を巡る現在の課題 3. 旧約カノン（正典）の歴史的発展と受容 4. 旧約聖書神学登場の前史①: 新約聖書における旧約解釈 5. 旧約聖書神学登場の前史②: 古代教父における旧約解釈 その1（アレキサンドリア学派を中心に） 6. 旧約聖書神学登場の前史③: 古代教父における旧約解釈 その2（アンティオキア学派を中心に） 7. 旧約聖書神学登場の前史④: 中世と宗教改革の時代における旧約解釈 その1（ルターを中心に） 8. 旧約聖書神学登場の前史⑤: 中世と宗教改革の時代における旧約解釈 その2（カルヴァンを中心に） 9. 旧約聖書神学における最初期の発展（宗教改革後から17世紀まで） 10. 18世紀における旧約聖書神学（Gablerを中心に） 11. 19世紀における旧約聖書神学①（主要な神学的諸思想とそれらの旧約解釈への影響） 12. 19世紀における旧約聖書神学②（宗教史学派の台頭を中心に） 13. 20世紀における旧約聖書神学①（旧約神学の復活: パルト、アイヒロッド、アイスフェルト他を中心に） 14. 20世紀における旧約聖書神学②（宗教史研究の継続と発展） 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指示された聖書の箇所、テキスト、参考書等の該当箇所を学生皆が事前に読み、ディスカッションの準備をすること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>R. M. グラント著（茂泉昭男、倉松功訳）『聖書解釈の歴史』新教出版社、1966年（絶版、入手方法については授業で指示する）。C. E. ブラーテン、R. W. ジェンソン編（芳賀力訳）『聖書を取り戻す—教会における聖書の権威と解釈の危機—』教文館、1998年（学生が各自購入すること）；John H. Hayes & Frederick C. Prussner, <i>Old Testament Theology: Its History and Development</i>(London: SCM Press, 1985)（入手については授業で説明する）。</p>	
<p><参考書></p> <p>B. S. Childs, <i>Biblical Theology of the Old and New Testaments: Theological Reflection on the Christian Bible</i>(Minneapolis: Fortress Press, 1993); B. S. Childs, <i>The Struggle to Understand Isaiah as Christian Scripture</i> (Grand Rapids: Eerdmans, 2004). その他、授業に必要な論文・研究書等は、授業の中でその都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が3分の1を超えた者はレポートを提出できない。</p>	

専門教育科目・学部演習	
旧約聖書学部演習 b	田中 光
後期・2単位	<登録条件> a, b 両方とも登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書神学とは何かということを経史的に跡付けながら考察し、そのことによって得られた知識・洞察に基づいて、現在の聖書学の枠組みの中で、実際に旧約聖書を解釈する道を探る。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>後期は、その前半において、前期の授業に引き続いて旧約聖書神学の歴史を学ぶ。その後、旧約聖書神学の歴史を俯瞰した上で、現代を生きる我々がどのような態度で旧約解釈に臨めばよいかを考える一つの手掛かりとして、B. S. チャイルズのカノンの解釈について学ぶ。後半においては、それまでに得た知識・洞察に基づいて、現在の聖書学の枠組みでどのようにして旧約を神学的に解釈するかを探る。具体的には、実際に聖書テキストをヘブライ語で読み、釈義するプロセスを通して、論文執筆のために必要な技術と知識を身につける。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヘブライ語テキスト、英語の研究論文・研究書を読むための知識があることが望ましい（但し、これらの知識に心得が無くとも授業の発表・ディスカッションに参加できる方法を準備する）。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&イントロダクション： 前期のまとめと後期への展望 2. 旧約聖書神学における最近の発展（欧米の場合・日本の場合） 3. 旧約聖書のカノンの解釈： B. S. チャイルズの貢献 ①（チャイルズによる問題提起） 4. 旧約聖書のカノンの解釈： B. S. チャイルズの貢献 ②（「カノンの解釈」の展開） 5. 旧約聖書のカノンの解釈： B. S. チャイルズの貢献 ③（ad fontes: 源泉に帰れ） 6. 聖書学の論文の書き方① 論文を書く際の心得、また、解釈上の問題の指摘とテーゼ、方法論の提示 7. 聖書学の論文の書き方② テキストの私訳、テーゼの論証、文献表、図書館・データベースの利用 8. 論文執筆実習① 本文批評、聖書の古代語訳について 9. 論文執筆実習② イザヤ書 8章 23節～9章 6節（イザヤ書を巡る聖書学の問題、テキストの前半を扱う） 10. 論文執筆実習③ イザヤ書 8章 23節～9章 6節（テキストの後半を主に扱う） 11. 論文執筆実習④ 上記聖書箇所に関する注解書の議論を読む（注解書の読み方の指導） 12. 論文執筆実習⑤ 上記聖書箇所に関する研究書・論文の議論を読む（論文の読み方の指導） 13. 論文のテーゼ、方法論、目次、文献表の発表（Thesis Proposal）（第1グループ） 14. 論文のテーゼ、方法論、目次、文献表の発表（Thesis Proposal）（第2グループ） 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指示された聖書の箇所、テキスト、参考書等の該当箇所を学生皆が事前に読み、ディスカッションの準備をすること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia（学生が各自で用意すること）；R. M. グラント著（茂泉昭男、倉松功訳）『聖書解釈の歴史』新教出版社、1966年；C. E. ブラーテン、R. W. ジェンソン編（芳賀力訳）『聖書を取り戻す—教会における聖書の権威と解釈の危機—』教文館、1998年；John H. Hayes & Frederick C. Prussner, <i>Old Testament Theology: Its History and Development</i>(London: SCM Press, 1985).</p>	
<p><参考書></p> <p>B. S. Childs, <i>Biblical Theology of the Old and New Testaments: Theological Reflection on the Christian Bible</i>(Minneapolis: Fortress Press, 1993); B. S. Childs, <i>The Struggle to Understand Isaiah as Christian Scripture</i> (Grand Rapids: Eerdmans, 2004). 後期は、以上の書物に加えて、聖書テキストを釈義するための注解書も参照する。注解書も含め、読むべき文献はその都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が3分の1を超えた者はレポートを提出できない。</p>	

専門教育科目・学部演習	
新約聖書学部演習 a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ>学部論文を書くことを念頭に、新約聖書学の研究書を読む。各テキストの内容と共に新約聖書学の議論の仕方を学び、史的イエス研究、共観福音書、中でもマルコ福音書の理解を深める。</p>	
<p><授業の概要>テキストを分担して読む。担当を決め、発表と議論によって理解を深める。</p>	
<p><履修条件>学部4年の新約専攻および他専攻の希望する学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 『歴史の中のイエス像』 松永希久夫、日本放送出版協会、1989年 3. 『史的イエスと「ナザレのイエス」』 上智大学キリスト教文化研究所編、リトン、2010年、1-47頁。 4. 『イエス・キリスト下』 荒井献、講談社学術文庫、2001年、3-101頁。 5. 同上、102-210頁。 6. 同上、211-333頁。 7. 同上、334-473頁。 8. 『受難物語の起源』E・トロクメ、加藤隆訳、教文館、1998年、3-90頁。 9. 『原始キリスト教の一断面』（新装版）田川建三、勁草書房、2006年、1-115頁。 10. 同上、116-199 11. 同上、200-318頁。 12. 同上、319-354頁。 13. 『新約学と文学批評』ノーマン・ピーターセン、宇都宮秀和訳、教文館、1986年、3-71頁。 14. 同上、72-132頁。 15. まとめ <p>ただし、受講者の関心によって適宜調整する</p>	
<p><準備学習等の指示>担当箇所を予め指定するので内容を紹介し、意見を述べる。また担当しない時は他の学生の発表を聞いて議論に参加する。</p>	
<p><テキスト> 上記。各自準備する。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席状況、授業参加、期末の課題によって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・学部演習	
新約聖書学部演習 b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>学部4年生
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学部論文として積義レポートを書くためのクラス</p>	
<p><授業の概要> 論文の書き方、積義の仕方などを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 新約専攻者はもちろん、その他の人にも開かれている。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 一般的論文、レポートの書き方 ③ 積義レポートの書き方 ④ 問題発見 ⑤ 自分の問題意識を学問的文脈に位置づける ⑥ 専攻研究を発見 ⑦ 専攻研究から学ぶ ⑧ 積義の手続き ⑨ 注解書を読む ⑩ 研究書を読む ⑪ テクストの選定 ⑫ テクストの積義 ⑬ 自らのテーゼを発見 ⑭ 見直し ⑮ まとめ、提出 	
<p><準備学習等の指示> とにかくコツコツ、聖書テキストや研究書と取り組むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて指示をする。</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度、努力、その結果としての積義レポートなどを通して総合的に評価する。出席が3分の2に達しない場合は、評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・学部演習	
組織神学学部演習 a	神代 真砂実 須田 拓
前期・2単位	<登録条件>組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする
<授業の到達目標及びテーマ> 組織神学的に考え、叙述する技法を身に着けること。	
<授業の概要> 後期における卒業論文作成の準備。	
<履修条件> 学部4年生で卒業を予定している者。	
<授業計画> 第1回 オリエンテーション (指導：神代・助言：須田) 第2回 「組織神学」の仕方①：テキストA (プリント) の読解 (指導：神代・助言：須田) 第3回 「組織神学」の仕方②：テキストAの批判的検討 (指導：須田・助言：神代) 第4回 「組織神学」の仕方③：批評を書く (数名ずつ) (指導：神代・助言：須田) 第5回 同上 (指導：須田・助言：神代) 第6回 卒業論文の主題について (各自による発表) (指導：須田・助言：神代) 第7回 註と文献表の書き方およびパラグラフの書き方①：パラグラフとは何か (指導：神代・助言：須田) 第8回 パラグラフの書き方②：パラグラフを書くための基礎知識 (指導：神代・助言：須田) 第9回 卒業論文の主題と文献について (各自による発表) (指導：須田・助言：神代) 第10回 「組織神学」の仕方④：テキストB (プリント) の読解 (指導：須田・助言：神代) 第11回 「組織神学」の仕方⑤：テキストBの批判的検討 (指導：神代・助言：須田) 第12回 「組織神学」の仕方⑥：批評を書く (数名ずつ) (指導：須田・助言：神代) 第13回 同上 (指導：神代・助言：須田) 第14回 卒業論文主題の最終決定 (各自による発表：数名ずつ) (指導：須田・助言：神代) 第15回 同上およびまとめ (指導：神代・助言：須田)	
<準備学習等の指示> 課題をきちんとやってくること。	
<テキスト> 授業で配付されるプリント、および、泉忠司、『90分でコツがわかる！ 論文&レポートの書き方』(青春出版社)。	
<参考書>	
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期中の課題によって評価する。	

専門教育科目・学部演習	
組織神学学部演習 b	神代 真砂実 須田 拓
後期・2単位	<登録条件>組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする
<授業の到達目標及びテーマ> 学部卒業論文の作成。	
<授業の概要> 受講者を六つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。	
<履修条件> 前期と同じ。	
<授業計画> 第一サイクル（文献表・主要文献の内容概観の発表） 第1回 第1グループ（担当：神代）・第2グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表 第2回 第3グループ（担当：神代）・第4グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表 第3回 第5グループ（担当：神代）・第6グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表 第二サイクル（1,000字程度を執筆してくる） 第4回 第1グループ（担当：須田）・第2グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表 第5回 第3グループ（担当：須田）・第4グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表 第6回 第5グループ（担当：須田）・第6グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表 第三サイクル（2,000字程度を執筆してくる） 第7回 第1グループ（担当：神代）・第2グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表 第8回 第3グループ（担当：神代）・第4グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表 第9回 第5グループ（担当：神代）・第6グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表 第四サイクル（3,000字程度を執筆してくる） 第10回 第1グループ（担当：須田）・第2グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表 第11回 第3グループ（担当：須田）・第4グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表 第12回 第5グループ（担当：須田）・第6グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表 第五サイクル（4,000字程度を執筆してくる） 第13回 第1グループ（担当：神代）・第2グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表 第14回 第3グループ（担当：神代）・第4グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表 第15回 第5グループ（担当：神代）・第6グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表	
<準備学習等の指示> 論文作成に積極的に取り組むこと。	
<テキスト> (なし。)	
<参考書> (なし。)	
<学生に対する評価（方法・基準）> 最終的に提出された卒業論文によって評価する。	

専門教育科目・学部演習	
歴史神学学部演習 a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業の到達目標及びテーマ> 一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を修得することを目標とする。	
<授業の概要> 歴史神学の学問研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。テキストを割り当てて発表して内容をつかむ。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。	
<履修条件> 特になし	
<授業計画> I 歴史神学の論文を書くための基礎知識 1 歴史神学とは 2 一次史料と二次史料 テキスト発表① 3 一次史料を読む テキスト発表② 4 一次史料を読む テキスト発表③ 5 二次史料を読む テキスト発表④ 6 二次史料を読む テキスト発表⑤ 7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑥ 8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦ II 学部論文作成 9 作成の注意と準備 10 論文の計画と執筆、注のつけ方 11 論文計画発表① 12 論文計画発表② 13 論文計画発表③ 14 ディカッション 15 まとめ	
<準備学習等の指示> 特になし	
<テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫 153） テキストは、各自購入しておくこと。	
<参考書> その都度指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。	

専門教育科目・学部演習	
歴史神学学部演習 b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>歴史神学学部演習 a を履修していること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を修得することを目標とするとともに、日本の教会史を讀み的確に評価する力をつける。</p>	
<p><授業の概要> 歴史神学の学問研究のための実践的な研究を行う。また将来牧師として関わるであろう教会史を執筆することを想定して、各個教会史を讀み、論評するという実践的準備も兼ねる。最後に学部論文作成を行う。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>I 歴史神学の論文を書くための実践的研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史神学と歴史学の流れ講義 2 論文作成の用いる一次史料と二次史料の内容紹介と分析 3 一次史料を讀む 内容紹介と評価 4 二次史料を讀む 内容紹介と評価 5 歴史神学論文を書く I 論文の構想と参考文献 6 歴史神学論文を書く II 目次と主題 <p>II 教会史を書くための実践的研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 各個教会史を讀む 発表 i 8 各個教会史を讀む 発表 ii 9 各個教会史を讀む 発表 iii 10 その批判的検討 11 教会史と日本の教会の諸問題・教会の制度と神学 12 教会史を書く 13 論文中間発表 i 14 論文中間発表 ii 15 まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 特になし</p>	
<p><テキスト> 引き続き澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫 153）を用いる。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・聖書 I	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書学の研究書を読む力を養う。	
<授業の概要>授業では各自あらかじめ準備した日本語訳を検討し合う。	
<履修条件>英語II履修済みか同程度の英語読解力のレベルの学生が履修するのが望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (英和辞書持参のこと) 2. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 1-2 3. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 3-4 4. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 5-6 5. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 7-8 6. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 9-10 7. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 11-12 8. 1-7回のまとめ 9. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 13-14 10. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 15-16 11. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 17-18 12. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 19-20 13. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 21-22 14. テキスト 第1章 Knowing God, belonging to Christ p. 23-24 15. 9-14回のまとめ <p>進度は受講者の関心によって適宜調整する。</p>	
<準備学習等の指示>毎授業講読担当箇所を指定するので、各自あらかじめ日本語訳を準備の上で出席のこと。	
<テキスト> Victor Furnish, <i>The Theology of the First Letter to the Corinthians</i> , Cambridge: Cambridge University Press, 1999. 初回の授業時に配布する。	
<参考書>英和辞書、英文法書は各自使いやすいものを選び準備する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・聖書I	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。</p>	
<p><授業の概要> Magne Saebo, Offenbarung oder Verhüllung? Bemerkungen zum Charakter des Gottesnamens in Ex 3, 13-15, in: Jörg Jeremias / Lothar Perliitt (hg), Die Botschaft und die Boten. FS. Hans Walter Wolff zum 70. Geburtstag, Neukirchen-Vluyn, 1981, S. 43-55. を読む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 第1-3段 3. 第4-5段 4. 第6-8段 5. 第9-10段 6. 第11-12段 7. 第12段 8. 第13段 9. 第14-15段 10. 第16段 11. 第17-18段 12. 第19-21段 13. 第22-23段 14. 第24-25段 15. まとめ 主の名の意味 	
<p><準備学習等の指示> 取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと</p>	
<p><テキスト> 授業に関係する箇所のコピーを第一回授業時に配付する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 参加者は、毎回準備した翻訳を発表する。その内容によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・聖書Ⅱ	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語で聖書学の基本的な論文を読み、ドイツの聖書学に親しむ。</p>	
<p><授業の概要> 今年度も、現代ドイツの代表的な旧約緒論の教科書 Erich Zenger u.a., Einleitung in das Alte Testament, 3.Auflage, Kohlhammer, 1998.の中から、いくつかの箇所を読む。</p>	
<p><履修条件> ドイツ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Das Hohelied, 3.Geschichtlicher Kontext, S.348-349. 3. Das Hohelied, 4.Schwerpunkte der Theologie, S.349-350. 4. Das Hohelied, 5.Relevanz, S.351 5. Das Buch Ijob, S.297-298. 6. S.298-299. 7. S.299-300. 8. S.300-301. 9. S.301-302. 10. S.302-303. 11. S.303-304. 12. S.304-305. 13. S.305-306. 14. S.306-307. 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 毎回予習して授業に臨むこと。ドイツ語辞典を持参すること。きちんと文法を理解していない者には電子辞書の利用は勧められない。</p>	
<p><テキスト> 上記文献のコピーを配布する。</p>	
<p><参考書> そのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回準備した翻訳の正確さによって評価する。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織 I	須田 拓
前期・2単位	<登録条件> 学期毎の登録可
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学分野の英語文献を読むことができるよう、英語読解力を養成すると共に、神学議論に慣れることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 英語の神学書を読んで内容の把握に努めると共に、現代の三位一体論について学ぶ。授業では、受講者に、割り当てた箇所を要約あるいは全訳して発表していただく。</p>	
<p><履修条件> 英語 II 修了程度の英語力があること</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.1-2 第3回 テキスト講読 pp.3-4 第4回 テキスト講読 pp.5-7 第5回 テキスト講読 pp.8-10 第6回 テキスト講読 pp.11-12 第7回 テキスト講読 pp.13-14 第8回 テキスト講読 pp.15-17 第9回 テキスト講読 pp.18-19 第10回 テキスト講読 pp.20-21 第11回 テキスト講読 pp.22-23 第12回 テキスト講読 pp.24-25 第13回 テキスト講読 pp.26-27 第14回 テキスト講読 pp.28-29 第15回 テキスト講読 pp.30-32</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> Stephen R. Holmes, <i>The Quest for the Trinity: the Doctrine of God in Scripture, History and Modernity</i>, Downers Grove: IVP Academic, 2012 テキストは担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び発表により評価する。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅱ	須田 拓
後期・2単位	<登録条件> 学期毎の登録可
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学分野の英語文献を読むことができるよう、英語読解力を養成すると共に、神学議論に慣れることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 英語の神学論文を読んで内容を把握することを目指すと共に、現在論争になっている、カール・バルトの永遠理解について学ぶ。授業では、受講者に、割り当てた箇所を要約あるいは全訳して発表していただく。</p>	
<p><履修条件> 英語Ⅱ修了程度の英語力があること</p>	
<p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.165-166 第3回 テキスト講読 pp.166-167 第4回 テキスト講読 pp.168-169 第5回 テキスト講読 pp.170-171 第6回 テキスト講読 pp.172-173 第7回 テキスト講読 pp.173-174 第8回 テキスト講読 pp.175-176 第9回 テキスト講読 pp.177-178 第10回 テキスト講読 pp.178-179 第11回 テキスト講読 pp.180-181 第12回 テキスト講読 pp.182-183 第13回 テキスト講読 pp.184-185 第14回 テキスト講読 pp.186-187 第15回 テキスト講読 pp.188-190</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> George Hunsinger, 'Mysterium Trinitatis: Barth's Conception of Eternity', in: G.Hunsinger ed., <i>For the Sake of the World: Karl Barth and the Future of Ecclesial Theology</i>, Grand Rapids and Cambridge: William B. Eerdmans, 2004, pp.165-190 テキストは担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び発表により評価する。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅱ	長山 道
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語の神学書を通して教会と社会の関係について考察しつつ、読解力を身につける。</p>	
<p><授業の概要> テキストの翻訳、解釈。論文作成のためにドイツ語文献を読むことについても適宜触れる。</p>	
<p><履修条件> 基本的な文法を修得していること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 <i>Die Theorie der christlichen Gewißheit</i>, S. 117 3 S. 118 4 S. 119 5 S. 120 6 S. 121 7 S. 122 8 S. 123 9 S. 124 10 S. 125 11 <i>Einleitung in die Systematische Theologie</i>, S. 252-253 12 S. 254 13 S. 255 14 S. 256 15 まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 予習して出席すること。</p>	
<p><テキスト> Konrad Stock, <i>Die Theorie der christlichen Gewißheit. Eine enzyklopädische Orientierung</i>, Tübingen, 2005. Ders., <i>Einleitung in die Systematische Theologie</i>, Berlin/New York, 2011. 担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の発表により評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅳ	左近 豊
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において、旧約聖書神学的視座に立った思索を身につけることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、エレミヤ書、哀歌等を取り上げ、参照すべき聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉を探求する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、序 課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する。 2、旧約聖書と現代（1）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する。 3、旧約聖書と現代（2）：現代日本を旧約聖書神学的視点から考察する。 4、証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する。 5、聖書における嘆きの神学的考察の可能性を探る 6、旧約聖書 嘆きの詩編（1）：その様式と内容について考察する。 7、旧約聖書 嘆きの詩編（2）：「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する。 8、旧約聖書 エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する。 9、旧約聖書 哀歌（1）：「哀歌」の様式と内容について考察する。 10、旧約聖書 哀歌（2）：「哀歌」の神学的主題について考察する。 11、信仰共同体の歴史における嘆き（1）：ユダヤ教ラビ文献における哀歌解釈について考察する。 12、信仰共同体の歴史における嘆き（2）：アウシュヴィッツ後の哀歌解釈について考察する。 13、キリストの受難における嘆き：嘆きの礼拝学的意味を考察する。 14、現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する。 15、総括 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくとよい。</p>	
<p><テキスト></p> <p>聖書。その他授業の中で指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>各回レジュメに参考文献を挙げる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業への参加を重視し、期末レポートによって評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ヒブル語 I (1,2)	本間 敏雄
前期・4単位	<登録条件> 通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>テーマ：聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。</p> <p>目標：平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。</p>	
<p><履修条件></p> <p>単位取得者は継続して後期（Ⅱ）も履修すること。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1課 ヒブル語とは、文字 (Alphabet)、書き方 2) 1課 写字練習、写本文字(Codex Leningradensis) 3) 2課 母音記号 (Vowel-signs) 4) 3, 4課 音節、Shewa、母音文字、Mappiq 5) 5, 6課 Dagesh、Rafe、母音の分類と変化 6) 7, 8課 喉音、アクセント等諸記号、Ketib・Qere 7) 9課 定冠詞、形容詞 (1)、接続詞 (Conjunction) 8) 9課 (2) 9) 10課 人称・指示代名詞 (Pronoun)、関係代名詞 (1)、疑問詞 10) 11課 前置詞 (Preposition)、目的辞 (nota accusativi) 11) 11課 (2) 人称代名詞語尾 (Suffix) (1)：前置詞、目的辞付加形 12) 12課 動詞：完了態 (Perfect) 13) 13課 未完了態 (Imperfect) 14) 14課 願望形 (Jussive、Cohortative) 継続ウァウ (Waw Consecutive)、従属ウァウ 15) 14課 (2) 16) 15課 命令形 (Imperative)、不定詞 (Infinitive) 17) 15課 (2) 分詞 (Participle) 18) 16課 状態動詞 19) 17課 名詞：語形変化、分類、独立形、合成形 (Construct state) 20) 17課 (2) 合成形、形容詞 (2) 21) 18課 名詞の変化 (第一類)、不規則変化名詞 22) 18課 (2) 23) 19課 名詞の変化 (第二類)、副詞と形成接辞、所有 24) 20課 名詞の変化 (第三、第四、第五類)、名詞形成と接辞 25) 21課 人称代名詞語尾 (2) - I：名詞の～ 26) 21課 I (2) 27) 21課 人称代名詞語尾 (2) - II：動詞の～ 28) 21課 II (2) 29) 全体復習 30) 総まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予習大切。</p>	
<p><テキスト></p> <p>「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)</p>	
<p><参考書></p> <p>J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) ></p> <p>小テスト、筆記試験で評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ヒブル語Ⅱ	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>前期単位取得者
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>テーマ：聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。</p> <p>到達目標：平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語Ⅰ単位取得者。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。</p>	
<p><授業計画></p> <p>前期より継続</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 22課 動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal 2) 23課 強意語幹：Piel、Pual、Hithpael 3) 23課 (2) 4) 24課 使役語幹：Hifil、Hofal 5) 24課 (2) 6) 25課 不規則動詞：Pe 喉音動詞 7) 26課 Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞 (2) 8) 27課 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 9) 28課 数詞、所有表記 10) 29課 弱 Pe 動詞 (1)：Pe Alef、Pe Nun 動詞 11) 29課 (2) 12) 30課 弱 Pe 動詞：Pe Waw、Pe Yod 動詞 30課 13) 31課 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 14) 32課 二重弱動詞 15) 総まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予習大切。</p>	
<p><テキスト></p> <p>「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)</p>	
<p><参考書></p> <p>J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>小テスト、筆記試験で評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
アラム語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記 31：47・エレミヤ 10：11・エズラ 4：8-24・5：1-17 など）、アラム語文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。</p> <p>第 2 回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。</p> <p>第 3 回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第 4 回：エズラ 4：8-24 の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。</p> <p>第 5 回：エズラ 4：8-24 の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。</p> <p>第 6 回：エズラ 4：8-24 の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第 7 回：エズラ 4：8-24 の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。</p> <p>第 8 回：エズラ 4：8-24 の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第 9 回：エズラ 4：8-24 の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第 10 回：エズラ 4：8-24 の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。</p> <p>第 11 回：エズラ 5：1-17 の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。</p> <p>第 12 回：エズラ 5：1-17 の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ</p> <p>第 13 回：エズラ 5：1-17 の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。</p> <p>第 14 回：エズラ 5：1-17 の講読(4) Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第 15 回：エズラ 5：1-17 の講読(5) Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
アラム語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル書）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル5章の講読に備える。</p> <p>第2回：ダニエル書の講読(1) Pè' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第3回：ダニエル書の講読(2) Pè' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。</p> <p>第4回：ダニエル書の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。</p> <p>第5回：ダニエル書の講読(4) Lāmed' ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：ダニエル書の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第7回：ダニエル書の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。</p> <p>第8回：ダニエル書の講読(7) 代名詞語尾つきの動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第9回：ダニエル書の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。</p> <p>第10回：ダニエル書の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。</p> <p>第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。</p> <p>第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
イスラエル古代史	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 最近の歴史学と考古学の成果を踏まえて、旧約聖書のコンテキストである歴史について基本的知識を得る。</p>	
<p><授業の概要> イスラエル古代史において、決定的な意味を有する出来事を中心に歴史の流れを学ぶ。また、そのつど研究文献や考古学資料をも紹介して、現在の研究状況を解説する。</p>	
<p><履修条件> 学部1年次に2010年度以降入学した者、および学部3年次に2012年度以降編入学した者が、3・4年次に履修できる。大学院生による科目等履修も可能。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「始まり」：地理的・歴史的前提、旧約伝承の信頼性 2. 「族長」：その信憑性をめぐって 3. 「出エジプト」：どこまで歴史的か 4. 「土地取得」：取得か征服か、農民革命か社会変動か 5. 「士師時代」：アンフィクチオニーとは、イスラエルとは 6. 「士師時代から王制へ」：なぜ王国となったか、王国は初めから一つであったか 7. 「北王国とその滅亡」：北王国とは何か、サマリアの起源 8. 「南王国とその滅亡」：ダビデ王朝の基盤 9. 「アッシリアとバビロニア」：二つの大国の意義 10. 「バビロン捕囚期」：捕囚期とはどういう時代であったか 11. 「バビロン捕囚の意味と意義」：捕囚によって何がどう変わったか 12. 「ペルシア時代」：ユダヤ教団の成立、ユダヤ教団とは何か 13. 「ヘレニズム時代」：マカバイ戦争はなぜ起きたか 14. 「ユダヤ戦争まで」：後期ユダヤ教か、初期ユダヤ教か 15. 「旧約聖書のイスラエル」と「現在のイスラエル」は直結するか 	
<p><準備学習等の指示> 教科書をよく読むこと。また第1回の授業で紹介される文献も読むことを勧める。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書のほか、S.ヘルマン・W.クライバー（樋口訳）『よくわかるイスラエル史—アブラハムからバル・コクバまで』教文館、1600円を用いる。</p>	
<p><参考書> 第1回授業で文献を紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末レポートで評価する。3分の1以上欠席した者はレポートを提出できない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約原典講読 I	三永 旨従
前期・2単位	<登録条件> II と通年での登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 編集史批判の立場から共観福音書の各文書の特徴を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語 1、2 を修得済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 辞書、コンコーダンスの用法について 2. "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.52-54 3. "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.54-57 4. 「嵐を鎮める」読解 (マルコ) 5. 「嵐を鎮める」読解 (マタイ) 6. 「嵐を鎮める」読解 (ルカ) 7. 「ゲッセマネの祈り」読解 (マルコ) 8. 「ゲッセマネの祈り」読解 (マタイ) 9. 「ゲッセマネの祈り」読解 (ルカ) 10. 「十字架」読解 (マルコ) 11. 「十字架」読解 (マタイ) 12. 「十字架」読解 (ルカ) 13. 「ガリラヤ宣教」読解 (マルコ) 14. 「ガリラヤ宣教」読解 (マタイ) 15. 「ガリラヤ宣教」読解 (ルカ) 	
<p><準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamm in <u>Tradition & Interpretation in Matthew</u>, G. Bornkamm, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27 版) に基づいた対観福音書 (授業にて紹介) ・"A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers" W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。) 	
<p><参考書> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > クラスへの参加あるいは試験による評価</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅱ	三永 旨従
後期・2単位	<登録条件> 通年での登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。</p>	
<p><授業の概要> 前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「盲人の癒し」読解（マルコ） 2. 「盲人の癒し」読解（マタイ） 3. 「盲人の癒し」読解（ルカ） 4. 「悪霊追放」読解（マルコ） 5. 「悪霊追放」読解（マタイ） 6. 「悪霊追放」読解（ルカ） 7. 「山上の変貌」読解（マルコ） 8. 「山上の変貌」読解（マタイ） 9. 「山上の変貌」読解（ルカ） 10. 「エルサレム入城」読解（マルコ） 11. 「エルサレム入城」読解（マタイ） 12. 「エルサレム入城」読解（ルカ） 13. 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 14. 「復活顕現」読解（マタイ） 15. 「復活顕現」読解（ルカ） 	
<p><準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書 ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。) 	
<p><参考書> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
教会実習Ⅱ	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会と伝道者の存在や働きを具体的に考えて学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要> 神学生として教会の奉仕をしていて、また将来牧会者／説教者になるものにとって重要な対人関係と話し方の訓練になる授業。通年で教会に於ける、また教会によるコミュニケーションを課題にして、講義とロールプレイによる実習からなる。逐語記録で学ぶこともある。</p>	
<p><履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 スピーチの定義 第2回 語り手について 第3回 語り手について 第4回 聴衆について 第5回 聴衆について 第6回 スピーチや説教の作り方について 第7回 スピーチや説教の作り方について 第8回 スピーチの発表 第9回 スピーチの発表 第10回 スピーチの発表 第11回 スピーチの発表 第12回 スピーチの発表 第13回 スピーチの発表 第14回 スピーチの発表 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 教師として期待することは、授業の出席を重んじること、ノートをとること、最初から授業に出て、積極的に参加すること。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	
<テキスト>	
<参考書>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> スピーチの発表、逐語記録で評価する。</p>	

専門教育科目・実践神学関係																																																																	
牧会心理学 b	W. ジャンセン																																																																
後期・2単位	<登録条件>																																																																
<授業の到達目標及びテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。																																																																	
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。																																																																	
<履修条件> 牧会心理学 a を終了したこと。 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。																																																																	
<授業計画> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>学習テーマ</u></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>恋愛</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>DV</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>ひきこもり問題</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>自らを赦す事</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>相手を赦す事</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>職場でのトラブル</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>病名告知</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>経済的悩み</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>自殺</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対一人)</td> <td>霊的に乾いている</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対二人)</td> <td>結婚相談</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対二人)</td> <td>非行少年[少女]問題</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>ロールプレー</td> <td>(一人対二人)</td> <td>共に暮らしている親との人間関係</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		第1回	オリエンテーション						<u>学習テーマ</u>	第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛	第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV	第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題	第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦す事	第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦す事	第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル	第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知	第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み	第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺	第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている	第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談	第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題	第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係	第15回	まとめ		
第1回	オリエンテーション																																																																
			<u>学習テーマ</u>																																																														
第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛																																																														
第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV																																																														
第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題																																																														
第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦す事																																																														
第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦す事																																																														
第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル																																																														
第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知																																																														
第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み																																																														
第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺																																																														
第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている																																																														
第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談																																																														
第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題																																																														
第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係																																																														
第15回	まとめ																																																																
<準備学習等の指示> 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。																																																																	
<テキスト>																																																																	
<参考書>																																																																	
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席、書評、ロールプレーの参加。																																																																	

専門教育科目・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会生活や学校生活により、自らを分析し、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 講師からの個人スーパービジョンや同僚のグループスーパーヴィジョンを受けて、実際に牧会ケアとカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。</p>	
<p><授業計画> *オリエンテーション *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生による逐語記録ケース提出とディスカッションを行う。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト> 「エニアグラムーあなたを知る9つのタイプ」ドン・リチャード・リソ&ラス・ハドソン（角川書店、2001.）</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末スーパービジョン面接によって評価する。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> なるべく通年で履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>キリスト教は学問理論として研究・考察され得るが、何よりも歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。この福音伝道を理論的、歴史的に考察し、それを特にアジア的文脈において行うことを目指す。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>今回は、アジア諸国のキリスト教宗教一般を扱わず、一国を選び、その国の歴史と文化におけるキリスト教受容のプロセスを考察していく。日本と中国の間に位置する韓国のキリスト教を共に学んでいく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： アジアにおけるキリスト教—文化的、伝道論的視点から</p> <p>第2回： 初期におけるキリスト教との接触</p> <p>第3回： ネストリウス派キリスト教（景教）の足跡</p> <p>第4回： 韓国におけるローマ・カトリックの宣教</p> <p>第5回： プロテスタント宣教と韓国人</p> <p>第6回： プロテスタント宣教の始まり</p> <p>第7回： 近代啓蒙運動とキリスト教伝道</p> <p>第8回： 教会設立と民族運動</p> <p>第9回： 十字架の下なる教会</p> <p>第10回： 分派活動とエキュメニカル運動</p> <p>第11回： 宗教と神社問題</p> <p>第12回： 第二次世界大戦後の推移—教会再建と分裂</p> <p>第13回： 1960 代までの宗教状況</p> <p>第14回： 1960 年代後半から今日まで</p> <p>第15回： 今後の展望</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義もするが、受講者はできるだけ一度はテーマに従って発表していただく。次週授業で扱うテキスト箇所は皆が事前に読んで予備知識をもち、議論に参加できるよう心がけること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>土肥昭夫、他 共著、『アジア・キリスト教史』[1]、教文館</p>	
<p><参考書></p> <p>日本基督教団出版局編、『アジア・キリスト教の歴史』、1991年</p> <p>関庚培（金忠一訳）、『韓国キリスト教会史』、新教出版社、1981年</p> <p>H.G. アンダーウッド（韓哲範訳、『朝鮮の呼び声』、未来社、1976年</p> <p>柳東植（澤、金 共訳）、『韓国キリスト教 神学思想史』、教文館、1986年</p> <p>澤正彦、『未完 朝鮮キリスト教史』、日本基督教団出版局、1991年、その他</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業の中で行う発表、レポート提出、意見・質問等の参加度を総合的に判断し、最後授業において評価することをもって定期試験とする。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件> なるべく通年で履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序説1－伝道(宣教)学とは何か－ 2. 序説2－アジア・キリスト教伝道論－ 3. 序説3－キリスト論的三位一論における諸宗教との対話－ 4. 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 (以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義) 5. 議論の背景 6. 権威の問題 7. 三位一体の神の宣教 8. 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－ 9. 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－ 10. 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－ 11. 福音と世界の歴史 12. 神の正義のための行動としての説教 13. 教会成長、改宗、文化 14. 諸宗教の中の福音 15. アジア伝道の反省と展望(講義) 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。</p>	
<p><参考書></p> <p>1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology・Focused on Christology、『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業時の発表、参加度、学期末レポートなどによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・古典語																																					
ラテン語 I	佐野 好則																																				
前期・2単位	<登録条件>なるべく通年で登録する。																																				
<p><授業の到達目標及びテーマ> ラテン語基礎文法の修得（一）</p>																																					
<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に即して、ラテン語文法を説明・解説する。 ・ 履修学生には変化表の暗記と練習問題が課題として課される。 																																					
<p><履修条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部3年次以上、通年で履修することが望まれる。 ・ 出席回数が2/3に満たない場合は最終試験を受験することができない。 																																					
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書各課の文法事項の概略を授業内に説明し、宿題として課された練習問題を解説する。 ・ 各課の変化表の暗記を宿題として課す。 																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回</th> <th>授業内容（予定）</th> <th>授業回</th> <th>授業内容（予定）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書：第I課・第II課</td> <td>9</td> <td>教科書：第X課</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教科書：第III課</td> <td>10</td> <td>教科書：第XI課</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教科書：第IV課</td> <td>11</td> <td>教科書：第XII課</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>教科書：第V課</td> <td>12</td> <td>教科書：第XIII課</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>教科書：第VI課</td> <td>13</td> <td>教科書：第XVI課</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>教科書：第VII課</td> <td>14</td> <td>教科書：第XV課</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>教科書：第VIII課</td> <td>15</td> <td>前期のまとめと総括</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>教科書：第IX課</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		授業回	授業内容（予定）	授業回	授業内容（予定）	1	教科書：第I課・第II課	9	教科書：第X課	2	教科書：第III課	10	教科書：第XI課	3	教科書：第IV課	11	教科書：第XII課	4	教科書：第V課	12	教科書：第XIII課	5	教科書：第VI課	13	教科書：第XVI課	6	教科書：第VII課	14	教科書：第XV課	7	教科書：第VIII課	15	前期のまとめと総括	8	教科書：第IX課		
授業回	授業内容（予定）	授業回	授業内容（予定）																																		
1	教科書：第I課・第II課	9	教科書：第X課																																		
2	教科書：第III課	10	教科書：第XI課																																		
3	教科書：第IV課	11	教科書：第XII課																																		
4	教科書：第V課	12	教科書：第XIII課																																		
5	教科書：第VI課	13	教科書：第XVI課																																		
6	教科書：第VII課	14	教科書：第XV課																																		
7	教科書：第VIII課	15	前期のまとめと総括																																		
8	教科書：第IX課																																				
<p><準備学習等の指示></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回課される変化表の暗記と練習問題に取り組むこと。 ・ 宿題以外にも復習に励むこと。 																																					
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土岐健治・井坂民子「楽しいラテン語」（教文館）。各自購入すること。 																																					
<p><参考書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の中で指示する。 																																					
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の授業での課題への取り組みと期末試験の成績を総合的に考慮して評価する。 																																					

専門教育科目・古典語

ラテン語Ⅱ

佐野 好則

後期・2単位

<登録条件>なるべく通年で登録する。

<授業の到達目標及びテーマ>
ラテン語基礎文法の修得（二）

<授業の概要>

- ・ 教科書に即して、ラテン語文法を説明・解説する。
- ・ 履修学生には変化表の暗記と練習問題が課題として課される。

<履修条件>

- ・ 学部3年次以上、通年で履修することが望まれる。
- ・ 出席回数が2/3に満たない場合は最終試験を受験することができない。

<授業計画>

- ・ 教科書各課の文法事項の概略を授業内に説明し、宿題として課された練習問題を解説する。
- ・ 各課の変化表の暗記を宿題として課す。

授業回	授業内容（予定）	授業回	授業内容（予定）
1	教科書：第 XVI 課	9	教科書：第 XXIV 課
2	教科書：第 XVII 課	10	教科書：第 XXV 課
3	教科書：第 XVIII 課	11	教科書：第 XXVI 課
4	教科書：第 XIX 課	12	教科書：第 XXVII 課
5	教科書：第 XX 課	13	教科書：第 XXVIII 課
6	教科書：第 XXI 課	14	教科書：第 XXIX 課
7	教科書：第 XXII 課	15	後期のまとめと総括
8	教科書：第 XXIII 課		

<準備学習等の指示>

- ・ 毎回課される変化表の暗記と練習問題に取り組むこと。
- ・ 宿題以外にも復習に励むこと。

<テキスト>

- ・ 土岐健治・井坂民子「楽しいラテン語」（教文館）。各自購入すること。

<参考書>

- ・ 授業の中で指示する。

<学生に対する評価（方法・基準）>

- ・ 毎回の授業での課題への取り組みと期末試験の成績を総合的に考慮して評価する。

教職課程・教職に関する科目	
教職概論	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 専門職としての学校教師となるための実践的見識の修得方法、および制度論的課題を正しく把握することを目指す。</p>	
<p><授業の概要> 今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を、教師に関する理解の歴史の変遷、文化、見識、教育課題などに分類して考察していく。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師への関心 2. 教職の専門性をめぐって 3. 教師文化の規範 4. 専門家の文化形成 5. 教師の実践的見識 6. 教師の知識と教育学的推論 7. 事例研究と語りの様式 8. 教師教育の課題 9. 生涯学習 10. 専門職化 11. 教員免許更新の教師養成について 12. 神学大学における教師養成理念 13. キリスト教学校での教師像 14. 神学大学における教師養成理念 15. 今後の課題 	
<p><準備学習等の指示> 毎回の授業において、前半は担当講師の講義をし、後半は指定テキストの分担箇所での学生発表と意見交換がなされる。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。</p>	
<p><テキスト> 講義に用いる諸資料は、および学生発表に用いるテキスト（稲垣忠彦・久富善之、『日本の教師文化』、東京大学出版会、1994年）を、教師が用意する。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長尾十三二、『教師教育の課題』、玉川大学出版部、1994年 2. 近藤邦夫、『教師と子どもの関係づくり』、東京大学出版会、1995年 3. 佐藤学、『教師というアポリア=反省的实践』、世織書房、1996年 	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。 出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
心理発達と教育	森 真弓
前期・2単位	<登録条件> 特にない
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>人の発達段階における課題を整理し、教育現場における適応と不適応、または問題行動の背景にある心理を発達心理学・臨床心理学の視点から理解する力を身につける。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>人生をライフステージごとに見つめ、教育者として把握しておきたい生徒の発達課題について、学生からの質問を含む「レスポンスペーパー」や随時設定する「ディスカッション」等を通じて学習を進めていく。</p> <p>思春期（青年期前期）の理解に「乳幼児期の発達の視点」がいかに重要かを学ぶ。また近年学校現場で多く見られる「発達障害」についても基本的知識を獲得する。青年期の‘理想主義’や‘禁欲主義’の心理から発展させ、「キリスト者の心理特性」についても考察する。成人期・中年期では、生徒の保護者理解をそのライフステージの視点から深めるとともに、この時期の教育者の側の課題を知的側面から整理しておく。うつ病と自殺についても学ぶ。老年期では認知症にも触れ、高齢者がよりよく生きるための支援についても共に考える。成人期以降については職場の上司理解、同僚理解にもつながるような内容にしたい。</p> <p>また途中で教育者自身の自己理解を深めるため、査定・ワークを3回に分けて実施する。教育者になるための心理的レジネスや自己対応スキルにつながることを目的としている。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特にない</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心とは———既知の理論 2 心理発達基礎理論(1)———エリクソン、フロイト 他 3 心理発達基礎理論(2)———ピアジェ、コールバーグ 他 4 自分自身を知る I ———エゴグラム他（心理テスト演習） 5 乳児期———クライン、精神病理・人格障害 等 6 幼児期———マラー、甘え理論 等 7 児童期———児童期課題、発達障害 他 8 思春期———乳幼児期との比較をとおして生徒を理解する 9 青年期(1)———青年期のイベント、現代の青年 10 青年期(2)———キリスト者の心理特性、青年ルター 11 自分自身を知る II ———信仰と心理 12 成人期———成人期の区分と課題、男性性と女性性（母性と父性） 13 中年期———うつと自殺、教師のうつ病 等 14 老年期———「統合 対 絶望」、認知症 他 15 自分自身を知る III ———まとめ（ディスカッション） 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>なし</p>	
<p><テキスト></p> <p>授業中に資料を配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>出席と授業への参加状況および期末レポート（1回）により評価する。 ただし全授業の1/3以上の欠席者には単位を出さない。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育基礎論 I	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 教育の理念について学んだ後、西洋の教育の歴史と思想について、代表的な教育学者を取り上げて学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 教育の理念（その1）教育の課題と目標 第2回 教育の理念（その2）子ども観の変遷と教育 第3回 教育の理念（その3）教育の目的と作用 第4回 教育の理念（その4）教育と宗教 第5回 西洋の教育の歴史と思想（その1）近代以前 第6回 西洋の教育の歴史と思想（その2）ルター 第7回 西洋の教育の歴史と思想（その3）コメニウス 第8回 西洋の教育の歴史と思想（その4）ルソー 第9回 西洋の教育の歴史と思想（その5）ペスタロッチ 第10回 西洋の教育の歴史と思想（その6）フレーベル 第11回 西洋の教育の歴史と思想（その7）ヘルバルト 第12回 西洋の教育の歴史と思想（その8）モンテッソーリ 第13回 西洋の教育の歴史と思想（その9）ジョン・デューイ 第14回 西洋の教育の歴史と思想（その10）シュタイナー 第15回 西洋の教育の歴史と思想（その11）障害者、女性の教育</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末のレポートによって評価する。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅱ	長山 道
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育に関する社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 学校社会学的に見た教育、社会における教育、教育制度の原理と基盤、および学校経営をめぐる基本問題について解説する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校の社会的機能 2 教育課程 3 学校文化と社会化 4 隠れたカリキュラム 5 地域社会と教育 6 家庭における教育 7 現代社会と教育 8 教育制度 9 教育法、教育行政 10 世界の学校制度 11 現代日本における学校制度 12 教職 13 組織としての学校 14 学校経営 15 学級経営 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> レジュメを配布する。</p>	
<p><参考書> 講義中に紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と学期末のレポートにより評価する。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
宗教科教授法 B a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の指導法を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 前期は宗教科における教師の役割、授業の意味と方法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 キリスト教教育論（その1）神学的人間論 第2回 キリスト教教育論（その2）信仰と教育 第3回 教師論（その1）聖書科教師と教務教師 第4回 教師論（その2）聖書科教師の使命と役割 第5回 聖書科の授業（その1）教科としての聖書科 第6回 聖書科の授業（その2）聖書科の授業 第7回 聖書科の授業（その3）聖書科のカリキュラム 第8回 聖書科の授業（その4）聖書科における聖書 第9回 授業の展開（その1）教理教育と道徳教育 第10回 授業の展開（その2）問題中心の授業 第11回 授業の展開（その3）聖書的授業、象徴授業 第12回 授業の展開（その4）文化形成 第13回 授業の方法（その1）学習指導案の作成 第14回 授業の方法（その2）教材の開発 第15回 授業の方法（その3）学習形態の工夫、授業展開を導く教授行為</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> 学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987年（絶版） 『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991年（絶版）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末のレポート（学習指導案）によって評価する。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
宗教科教授法 B b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の指導法を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 後期は学生の模擬授業とそれを踏まえての共同の討論を通して授業の進め方を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 キリスト教学校教育の歴史 第2回 聖書科授業の準備 第3回 模擬授業（その1） いやし（マルコ 2 章 1～12 節） 第4回 模擬授業（その2） 弟子になる（マタイ 4 章 18～22 節） 第5回 模擬授業（その3） 愛のおきて（マルコ 12 章 28～34 節） 第6回 模擬授業（その4） タレントを活かす（マタイ 25 章 14～30 節） 第7回 模擬授業（その5） パン五つと魚二匹（ルカ 9 章 10～17 節） 第8回 模擬授業（その6） 祈り（ルカ 11 章 1～13 節） 第9回 模擬授業（その7） 罪を犯した者へのまなざし（ヨハネ 8 章 1～11 節） 第10回 模擬授業（その8） なお一つ欠けているもの（マルコ 10 章 17～31 節） 第11回 模擬授業（その9） 空の鳥、野の花（マタイ 6 章 25～34 節） 第12回 模擬授業（その10） 赦す（マタイ 18 章 21～35 節） 第13回 模擬授業（その11） クリスマス（ルカ 2 章 1～21 節） 第14回 模擬授業（その12） 十字架（マルコ 15 章 1～47 節） 第15回 模擬授業（その13） 復活（マルコ 16 章 1～8 節）</p> <p>模擬授業においては、毎回一名の学生が 50 分の授業を行う。 その後、行われた授業を素材として、全体で討論を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> 後藤田典子『ジュニアのための聖書入門』新教出版社、2003 年。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の模擬授業発表および授業への参加で評価する。 （受講者が多くて発表できない場合は、授業の展開例のレポートで評価する。）</p>	

教職課程・教職に関する科目	
道徳指導法	菱刈 晃夫
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>人間存在にとって道徳がいかなる意味をもつのか。道徳への本質的問いを深める。今日の学校教育における「道徳の時間」に何ができるのかをさぐる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>現代日本社会における道徳および人間のあり方を捉えた上で、学校教育における「道徳の時間」にできること、できないことを見極め、その具体的指導法について学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 道徳への問い（わたしたちにとっての道徳） 現代社会における道徳のあり方について、その状況を直視する。</p> <p>第2回 道徳と人間 道徳と人間存在との関係について、古今東西の歴史を振り返る。</p> <p>第3回 道徳の語義 道徳という言葉のもつ意味について、深く探る。</p> <p>第4回 道徳性の育み 道徳はモラリティとして教えられるものではなく、育むものであることを理解する。</p> <p>第5回 学校教育のなかの道徳の時間(1) 学校教育における「道徳の時間」の位置づけを、歴史を振り返りつつ確認する。</p> <p>第6回 学校教育のなかの道徳の時間(2) 学習指導要領道徳編について、概略を把握する。</p> <p>第7回 学校教育のなかの道徳の時間(3) 学習指導要領に基づいた道徳教育の実践例を検討する。</p> <p>第8回 学校教育のなかの道徳の時間(4) 学習指導要領に基づいた道徳授業の模擬授業体験をする。</p> <p>第9回 学校教育のなかの道徳の時間(5) 道徳教育の模擬授業実践をさらに展開する。</p> <p>第10回 心の教育 心の教育について、理解を深める。</p> <p>第11回 現代の道徳教育（1） 現代日本における道徳教育の実践例を見る。</p> <p>第12回 現代の道徳教育（2） 世界における道徳教育の実践例を見る。</p> <p>第13回 宗教教育と道徳教育 宗教教育と道徳教育との関係について、理解を深める。</p> <p>第14回 霊性の涵養をめぐって スピリチュアリティの涵養について、指導要領4の視点とのかかわりを考える。</p> <p>第15回 キリスト教と道徳教育 キリスト教と道徳教育とのかかわりと、その実践例について概観する。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>下記テキスト、とくに『講義 教育原論』を受講前に全員必ず購入して学習に備えること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>宮野安治・山崎洋子・菱刈晃夫『講義 教育原論』（成文堂、2011年）。各自で購入すること。</p>	
<p><参考書></p> <p>菱刈晃夫『習慣の教育学——思想・歴史・実践——』（知泉書館、2013年）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業に2/3以上出席の上、(模擬)授業への参加の度合い、さらにミニレポート提出、およびその内容を鑑みて、総合的に評価する。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
特別活動指導法	山口 博
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。</p>	
<p><履修条件> 教職免許状取得希望者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置 2. 教育課程（カリキュラム）の意義 3. 教育課程（カリキュラム）の編成と現状 4. 特別活動の目標 5. ホーム・ルーム活動の意義と特質 6. 学校行事の意義と特質 7. 学校行事の現状分析 8. 学校礼拝の意義と特質 9. 式典について 10. 生徒会活動について 11. クラブ活動について 12. ボランティア活動について 13. 国際交流について 14. 総合的な学習について 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省</p>	
<p><参考書> 『キリスト教学校に勤めるということ』—現場の声— キリスト教学校教育同盟 監修</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育の方法と情報技術 I	石部 公男
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教職科目のひとつとして中学校および高等学校の授業を適切に進めることができる技術を養う。主にパワーポイントや HTML を使用し教材作成を行うが、教師と学生同士の講評を通じ、技術を高める。</p>	
<p><授業の概要> よりよい教材を作成するための技術の修得を目的とする。主としてパソコンを使用した教材の作成方法の技術的修得。ワード・エクセル・パワーポイントが使用できることを前提とする。</p>	
<p><履修条件> 原則として教職免許取得者を対象。学期ごとに履修可能。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育と宗教教育・・・憲法と教育基本法を見直す 2. 教育に関する法規の概要・・・学校教育法および同施行規則と学習指導要領との関係 3. 授業方法と技術・・・年間指導案と学期ごとの指導案の作成 I 4. 授業実践の原理と方法・・・指導案の作成 II 5. 一斉授業とグループ授業 6. 多様な情報機器を使用した教材作成 7. パソコンを使用した教材作成 その1 (ワードの使用) 8. パソコンを使用した教材作成 その2 (パワーポイントの利用) 9. パソコンを使用した教材作成 その3 10. パソコンを使用した教材作成 その4 11. パソコンを使用した教材作成 その5 12. パソコンを使用した教材作成 その6 13. パソコンを使用した教材作成 その7 14. パソコンを使用した教材作成 その8 15. パソコンを使用した教材作成 その9 	
<p><準備学習等の指示> パソコンの基本的操作と、ワードおよびエクセル、パワーポイントが使用できること。情報基礎を修得していることが望ましい。各自参考図書として挙げている本を読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 石部公男他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房(2003)</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 日常の授業状況と提出物。最後に作成教材をCDにて提出。平常点(50%)、提出物(50%)</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育の方法と情報技術Ⅱ	石部 公男
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育の方法と情報技術Ⅰに引き続き、パソコンを使用してより良い教材の作成ができるようにする。プレゼンテーションソフトを使用し、画像のほか、音楽やナレーションなどの音声を取り込んだ教材作成と、HTMLを使用した教材の作成が可能となるようにする。</p>	
<p><授業の概要> 教案の作成、およびテーマに沿った教材の作成を実習形式を取り入れ進める。また教師のみでなく学生相互の批評も取り入れ、より良い教材の作成が可能となるようにする。</p>	
<p><履修条件> 原則として、情報基礎の履修が終わっているか、それと同等のパソコン操作が可能な学生を前提とする。「教育の方法と情報技術Ⅰ」を履修していることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎時間ごとの指導案の作成 2. パワーポイントを使用した教材作成・・・1 3. パワーポイントを使用した教材作成・・・2 4. パワーポイントを使用した教材作成・・・3 5. パワーポイントを使用した教材作成・・・4 6. パワーポイントを使用した教材作成・・・5 7. パワーポイントを使用した教材作成・・・6 8. ネットワークの全体像 9. LANとWAN 10. セキュリティの概要 11. HTMLによる教材作成・・・1 12. HTMLによる教材作成・・・2 13. HTMLによる教材作成・・・3 14. HTMLによる教材作成・・・4 15. HTMLによる教材作成・・・5 と、まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 同「Ⅰ」の授業で参考にした図書をよく読んでおくことが望ましい。</p>	
<p><テキスト> 石部公男他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房（2003）</p>	
<p><参考書> 「HTMLタグ事典」など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎時間実習の性格があるので、平常点（50%）、毎回の発表時の内容と最後の提出物による評価（50%）。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育的指導と相談の研究 I	山本 与志春
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 生徒指導・進路指導の目的・内容・方法について理解を深め、より良い指導法を探求する。</p>	
<p><授業の概要> 生徒指導と進路指導の目的・内容・方法をテキストや参考書を通して学び、具体的な事例研究やグループ協議によって生徒理解のあり方とより良い指導法を探求する。キリスト教教育を担う者としての生徒指導・生徒理解・進路指導のあり方を考察する。</p>	
<p><履修条件> 教職課程履修者</p>	
<p><授業計画> 第1回 授業内容のガイダンス/生徒指導の今日的課題 第2回 生徒指導の意義と課題キリスト教教育が/目指す人間像 第3回 生徒指導と教育課程/道徳教育との関連 第4回 生徒指導と組織と計画/児童虐待 第5回 生徒理解の意味と内容/摂食障害 第6回 生徒指導の方法/集団指導/発達障害 第7回 生徒指導の方法/個別指導/自傷・自死 第8回 生徒指導の方法/家庭・関係機関との連携 第9回 問題行動の理解と指導/いじめ 第10回 問題行動の理解と指導/不登校 第11回 問題行動の理解と指導/非行 第12回 問題行動の理解と指導/暴力 第13回 問題行動の理解と指導/性非行 第14回 進路指導の目的/生きる目的 第15回 総括</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 教師養成研究会 教職課程講座7『生徒指導の理論と方法』3訂版 学芸図書株式会社(本体1,200円)</p>	
<p><参考書> 文部科学省『生徒指導提要』 教育図書(本体276円)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業後の小レポート30% 事例研究発表20% グループ協議での積極性・貢献度20% 総括レポート30%</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育的指導と相談の研究Ⅱ	森 真弓
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育相談の具体的なプロセスを理解し、学校現場で直面する様々な問題に対応できる力を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 思春期・青年期前期の生徒たちの発達上の特質や悩みの実態に即したカウンセリングの在り方・方法・諸注意を学び、具体的な事例をもとに研究する。キリスト教教育の観点に立ったカウンセリングの在り方もそれぞれの場面で考えたい。教員としての教育相談・カウンセリングの資質の向上をめざす内容になっている。 事例研究①～⑦は、学生によって作成される脚本をもとにロールプレイ（グループ）を実施する。1～5の講義内容が事例に活かされ、さらに実施事例に省察を加えるという形で研究を深めていく。 また、学校における危機管理体制や、事件事故後の緊急対応、それらを円滑にする学校内外の日常的な連携の在り方にも触れる。さらに保護者面談の持ち方や対応についても教育相談の視点から学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 教職課程履修者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談とは（その意義と生徒指導との関連） 2 教師―生徒の人間関係の心理 3 教師自身の自己理解 4 教師によるカウンセリングの基本（1）――生徒理解の基礎 5 教師によるカウンセリングの基本（2）――理論と技法 6 事例研究①――不登校 7 事例研究②――いじめ 8 事例研究③――非行（・盗み等） 9 事例研究④――性の問題（・性教育を考える） 10 事例研究⑤――薬物と依存の問題 11 事例研究⑥――リストカット、摂食障害 12 事例研究⑦――発達障害 13 危機管理、緊急対応、連携の在り方 14 保護者対応（面談のポイント等） 15 まとめ〈期末レポート発表〉 	
<p><準備学習等の指示> 事例研究のロールプレイの準備に当たっては、テーマについての入念な下調べと問題意識の高い脚本を期待する。</p>	
<p><テキスト> 授業中に資料を配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業への参加状況および期末レポート（1回）により評価する。 ただし全授業の1/3以上の欠席者には単位を出さない。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教職実践演習（中・高）	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 教職課程の最終段階で履修する
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 各自で補うべきテーマを設定し、役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。</p>	
<p><履修条件> 第1回の授業に、記入済みの「履修カルテ」を持参すること。 教育実習を終えているか、もしくは本年度に教育実習を行う者であること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 教職課程の振り返りと課題の発見 第2回 キリスト教学校の使命と宗教主任の役割 第3回 カリキュラムの構想 第4回 授業をする力 第5回 教師としての話し方・聞き方 第6回 聖書教育、道徳教育、こころの教育 第7回 教会との協力 第8回 生徒理解 第9回 個々の子どもの特性や状況への対応 第10回 いじめや不登校への対応 第11回 学級経営 第12回 他の教職員との協力 第13回 保護者会、保護者への伝道 第14回 学校礼拝の形成 第15回 学校行事での役割</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習における発表と参加によって評価する。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育実習 I	朴 憲郁 小泉 健
通年・5単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 中学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。</p>	
<p><履修条件> 実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論 I/II と宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（4月と11月予定）を欠席すると、単位は取得できない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習年度に、実習校で4週間（実質3週間）、授業を中心とした教育実習を受ける。 2. 実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各6時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。 	
<p><準備学習等の指示> 事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。必ず出席すること。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。随時、プリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 特になし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育実習Ⅱ	朴 憲郁 小泉 健
通年・3単位	<登録条件>通年で登録のこと
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 高等学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。</p>	
<p><履修条件> 実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論Ⅰ/Ⅱと宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（4月と11月予定）を欠席すると、単位は取得できない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習年度に、実習校で4週間（実質3週間）、授業を中心とした教育実習を受ける。 2. 実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各6時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。 	
<p><準備学習等の指示> 事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。必ず出席すること。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。随時、プリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 特になし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。</p>	